

2026年3月4日

2025年度 「学生による授業評価アンケート」結果報告

2025年度名古屋経済大学FD委員会

2025年度 学生による授業評価アンケート結果報告

- ・2025年度 授業評価アンケート 設問内容
- ・2025年度 実施概要
- ・2025年度 授業評価アンケート 教員所属別平均一覧
- ・2025年度 授業評価アンケート 度数分布（全13項目分）
- ・2025年度 授業担当者別（各学部・学科、非常勤講師）授業評価アンケート報告書
経済学部、経営学部、法学部、教育保育学科、管理栄養学科、非常勤講師担当分

注) 下線は、各学部・学科FD委員の作成、これら以外はFD委員長が作成した。

2026年3月4日

2025年度 「学生による授業評価アンケート」結果報告

2025年度名古屋経済大学FD委員会

昨年度までと変更し、年間1回の実施となった。2025年度は前期において実施した。よって、2026年度は後期となる。以降、前後期相互入替での実施となる。これは、アセスメントポリシーなどに基づく学生対象のアンケートが増えたことによる学生のアンケート疲れを避けるとともに、教員の負担を軽減することを目的としている。この変更に伴う問題については、実施しながらそれを見だし、解決のための方策をFD委員会で検討し、実施する必要があると考えている。なお体験型プロジェクトと副専攻科目は、別途アンケートを実施している。

(対象除外科目)

- ・ 必修演習科目
- ・ 教育実習等の学外実習科目
- ・ オンデマンド科目
- ・ 履修登録者数10名以下の科目

一昨年度は、前期科目で常勤教員の授業での実施率が数期ぶりに100%に達したが、非常勤教員の授業での実施率は100%ではなかった。しかし、後期は常勤・非常勤ともに100%に達した。昨年度は、前期も後期も常勤、非常勤ともに100%を維持した。結果として、今年度の実施率は常勤教員が100%を維持し、非常勤教員は99.2%ではあるものの、125名中124名(1名未実施)の実施となった。また、授業評価アンケートの結果に対する教員のコメントの提出率(提出数/授業数)は、100%(293/293)であった。

来年度以降、再びすべての数値で100%を目指すことができる体制になっている。この点を持続する必要がある。

以上

- A. あなたの所属している学部・学科は、どこですか
1…経済学部・現代経済学科
2…経営学部・経営学科
3…法学部・ビジネス法学科
4…人間生活科学部・教育保育学科
5…人間生活科学部・管理栄養学科
6…科目等履修生・研究生
- B. あなたは何年生ですか
1…1年生 2…2年生 3…3年生 4…4年生 5…その他
- C. あなたは留学生ですか
1…はい 2…いいえ
- D. あなたはスポーツ推薦で入学しましたか
1…はい 2…いいえ
- E. あなたはこの授業のシラバスを分かっていますか
1…はい 2…いいえ
1. あなたはこの授業によく出席しましたか
5…全部出席した 4…1-2回欠席した 3…3-4回欠席した
2…5-6回欠席した 1…7回以上欠席した
2. あなたはこの授業の履修（授業そのもの、予習、復習）に意欲的に取り組んだと思いますか
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
3. この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか 上記の設問Eで「はい」と答えた人のみ回答すること
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
4. 授業内容はわかりやすかったと思いますか
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
5. この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
6. 教員の教え方には熱意があったと思いますか
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
7. 授業の速さや進め方は適切だったと思いますか
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
8. 教科書・配布資料は活用されていたと思いますか
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
9. 板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
10. 教員の声は聞き取りやすかったと思いますか
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
11. 一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
12. 教員は授業時間を守っていたと思いますか
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
13. この授業の教え方はよいですか（この項目の結果はエクセレントティーチャーの表彰に用いられます）
5…強くそう思う 4…そう思う 3…どちらともいえない
2…そう思わない 1…まったくそう思わない
14. (自由質問)
15. その他、この授業について「良かった点」「不満な点」があれば記入してください。なお、不満は具体的に改善してほしい点を記入してください。

2025年度前期 実施概要

所属名	対象科目数 (A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	コメント 提出科目数 (C)	コメント提出率 (C÷B)
経済学部	26	26	100.00	0	0.00
経営学部	51	51	100.00	0	0.00
法学部	19	19	100.00	0	0.00
人間生活科学部・教育保育学科	37	37	100.00	0	0.00
人間生活科学部・管理栄養学科	36	36	100.00	0	0.00
非常勤	125	124	99.20	0	0.00
【全体】	294	293	99.66	0	0.00

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
経済学部	3,478	3,478	1,761	50.63
経営学部	4,521	4,521	2,622	58.00
法学部	2,845	2,845	1,585	55.71
人間生活科学部・教育保育学科	1,139	1,139	973	85.43
人間生活科学部・管理栄養学科	1,387	1,387	1,161	83.71
非常勤	4,670	4,656	3,196	68.64
【全体】	18,040	18,026	11,298	62.68

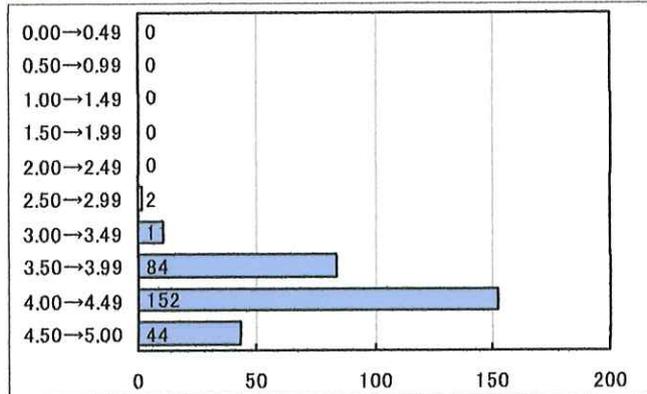
[名古屋経済大学] 2025年度前期 授業評価アンケート 教員所属別平均一覧

設問	内容
1	あなたはこの授業によく出席しましたか
2	あなたはこの授業の履修(授業そのもの、予習、復習)に意欲的に取り組んだと思いますか
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか 上記の設問Eで「はい」と答えた人のみ回答すること
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか
13	この授業の教え方はよいですか(この項目の結果はエクセレントティーチャーの表彰に用いられます)

所属	設問1	設問2	設問3	設問4	設問5	設問6	設問7	設問8	設問9	設問10	設問11	設問12	設問13
全体	4.12	4.23	4.42	4.26	4.26	4.36	4.28	4.31	4.31	4.37	4.27	4.43	4.29
経済学部	4.09	4.13	4.34	4.15	4.16	4.26	4.21	4.20	4.27	4.30	4.14	4.36	4.20
経営学部	4.08	4.20	4.38	4.22	4.21	4.34	4.24	4.32	4.24	4.33	4.24	4.40	4.27
法学部	3.95	4.16	4.36	4.18	4.22	4.32	4.23	4.18	4.20	4.30	4.21	4.35	4.21
人間生活科学部・教育保育学科	4.35	4.53	4.66	4.49	4.57	4.62	4.53	4.45	4.56	4.60	4.55	4.63	4.52
人間生活科学部・管理栄養学科	4.29	4.19	4.48	4.26	4.24	4.36	4.28	4.33	4.33	4.35	4.32	4.42	4.31
非常勤	4.11	4.28	4.44	4.31	4.28	4.37	4.28	4.37	4.36	4.41	4.31	4.47	4.33

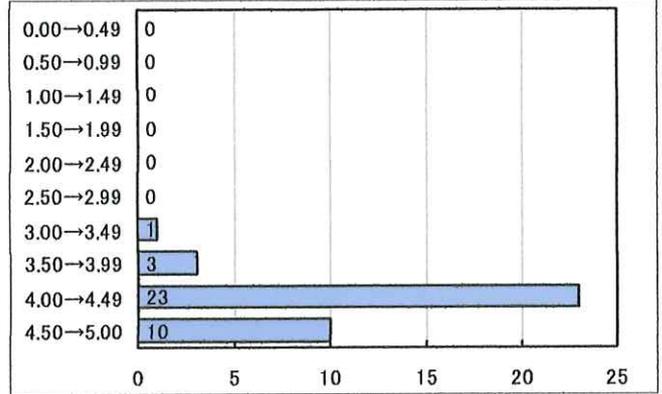
●1.あなたはこの授業によく出席しましたか

■全体



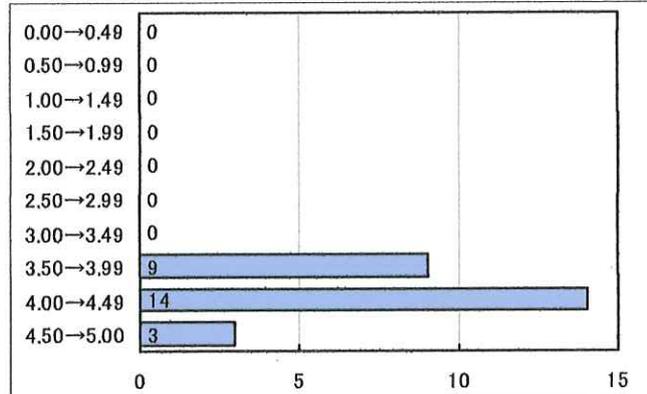
平均値 = 4.12

■人間生活科学部・教育保育学科



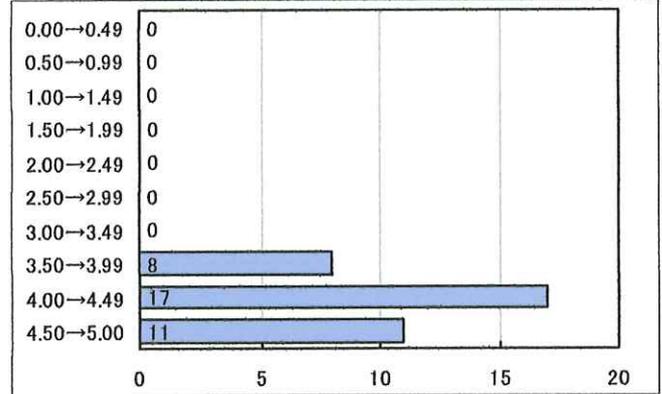
平均値 = 4.35

■経済学部



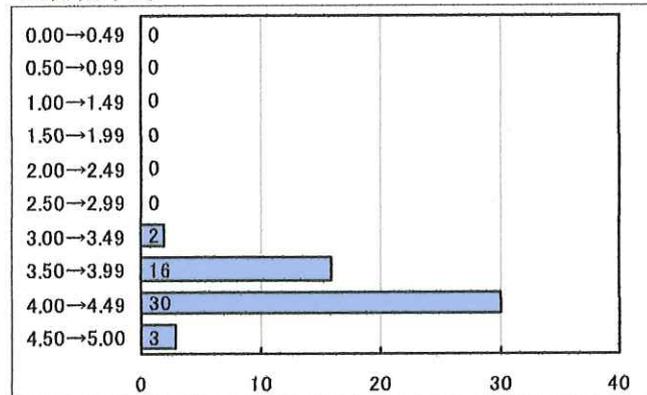
平均値 = 4.09

■人間生活科学部・管理栄養学科



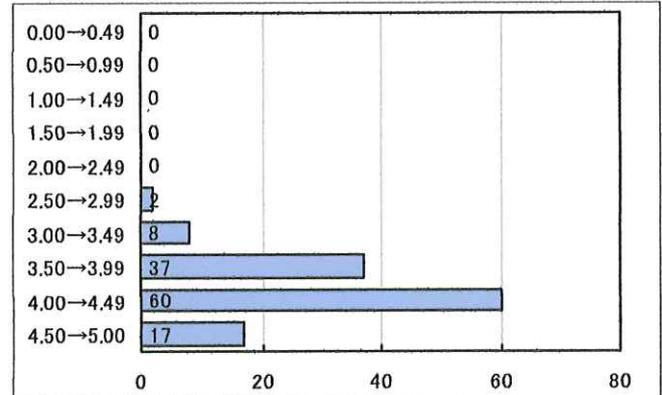
平均値 = 4.29

■経営学部



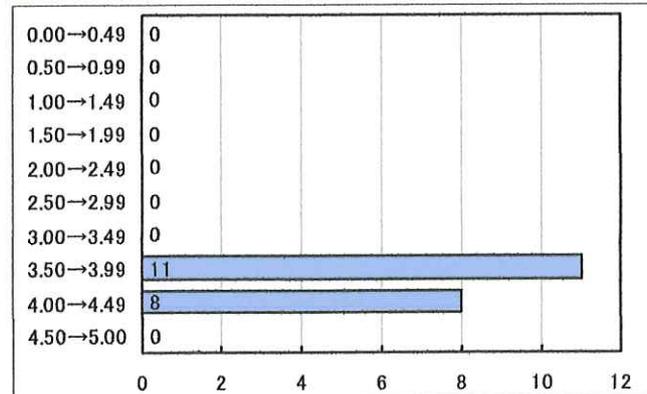
平均値 = 4.08

■非常勤



平均値 = 4.11

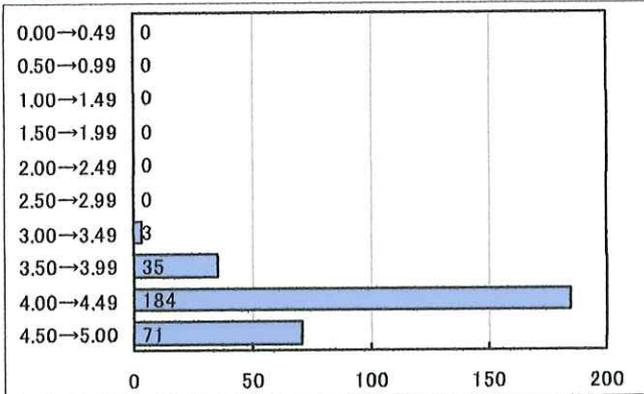
■法学部



平均値 = 3.95

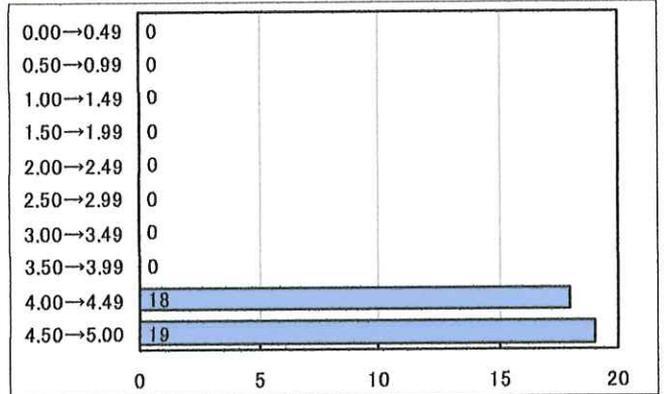
●2.あなたはこの授業の履修(授業そのもの、予習、復習)に意欲的に取り組んだと思いますか

■全体



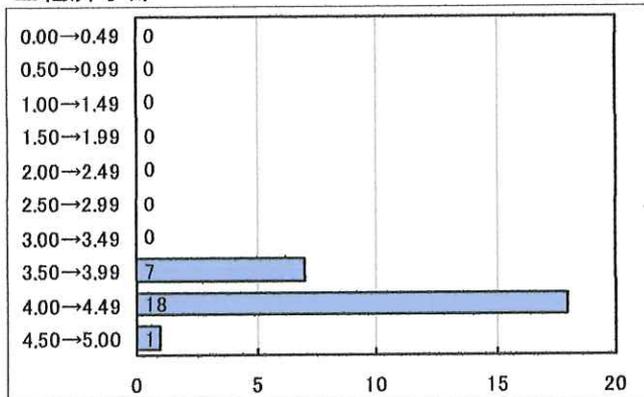
平均値 = 4.23

■人間生活科学部・教育保育学科



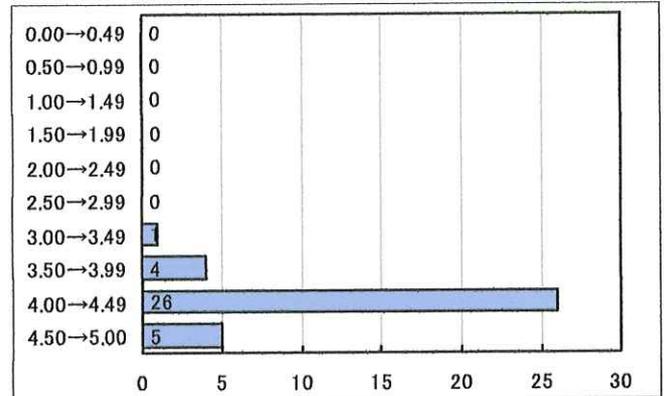
平均値 = 4.53

■経済学部



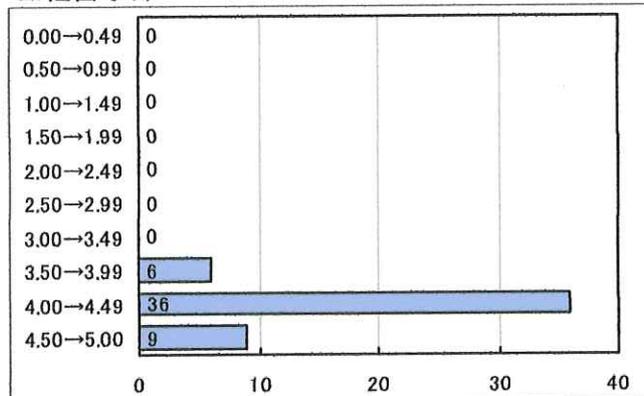
平均値 = 4.13

■人間生活科学部・管理栄養学科



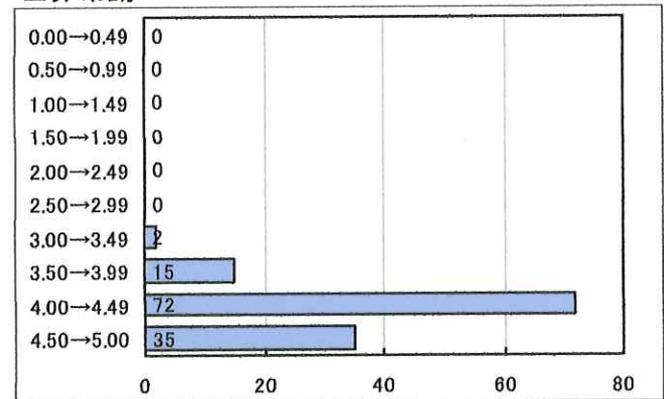
平均値 = 4.19

■経営学部



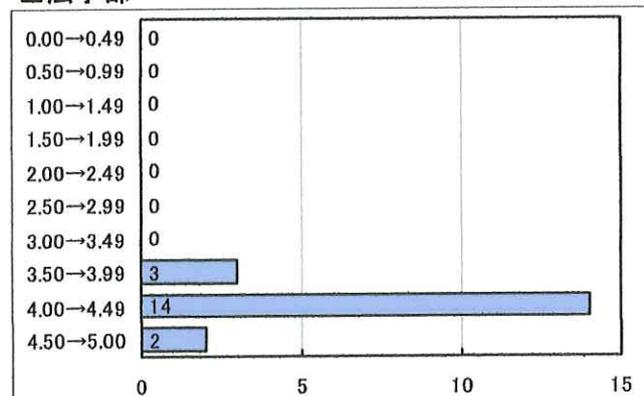
平均値 = 4.20

■非常勤



平均値 = 4.28

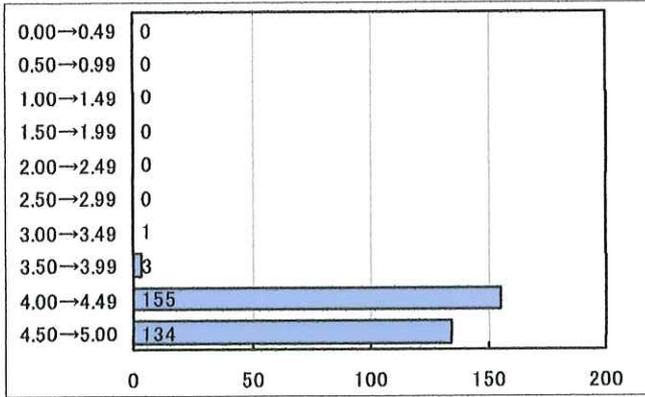
■法学部



平均値 = 4.16

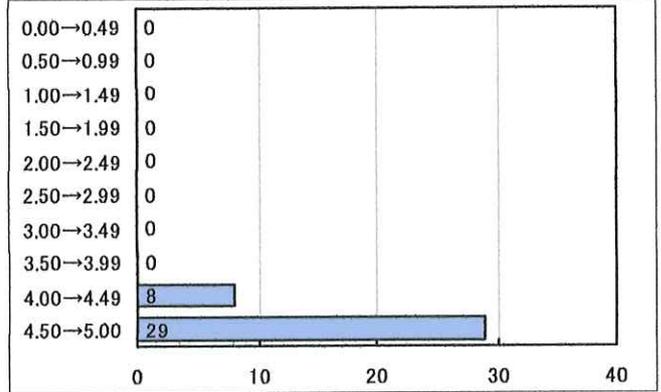
●3.この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか 上記の設問Eで「はい」と答えた人のみ回答すること

■全体



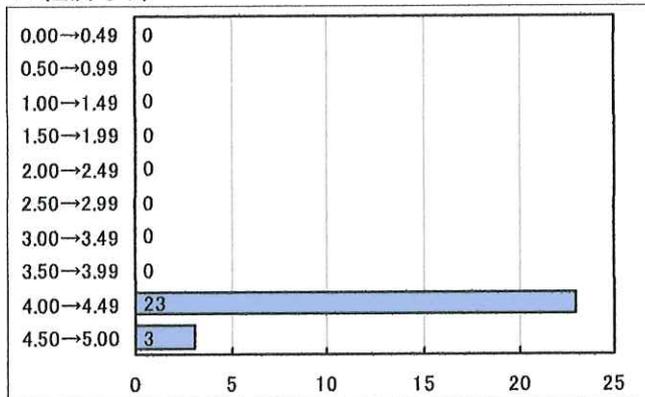
平均値 = 4.42

■人間生活科学部・教育保育学科



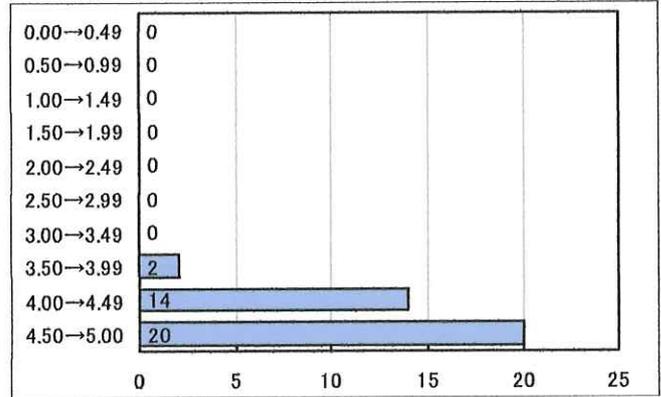
平均値 = 4.66

■経済学部



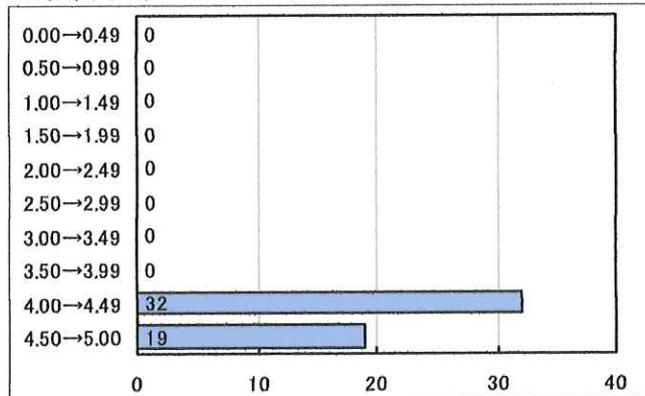
平均値 = 4.34

■人間生活科学部・管理栄養学科



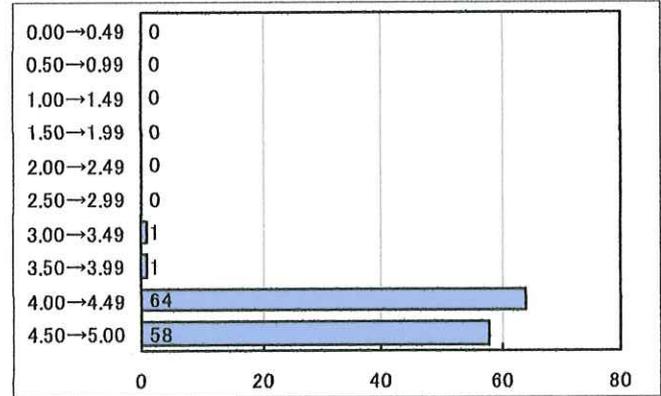
平均値 = 4.48

■経営学部



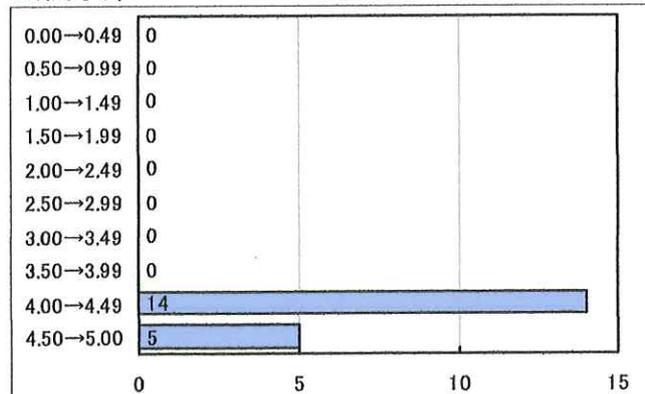
平均値 = 4.38

■非常勤



平均値 = 4.44

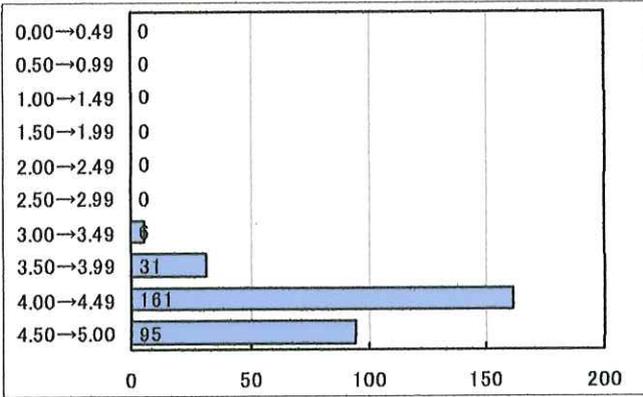
■法学部



平均値 = 4.36

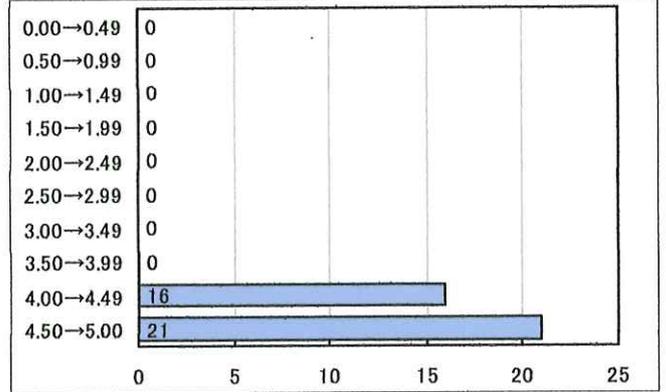
●4.授業内容はわかりやすかったですか

■全体



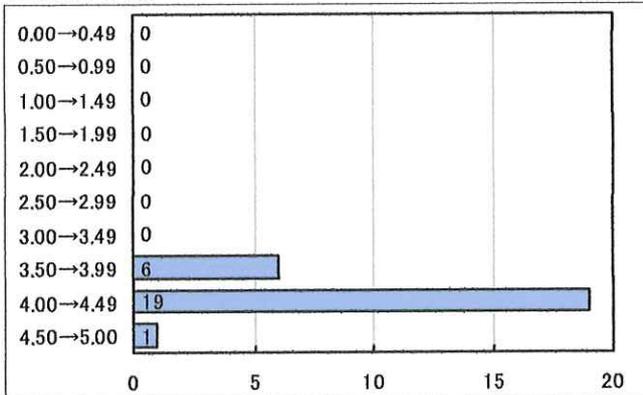
平均値 = 4.26

■人間生活科学部・教育保育学科



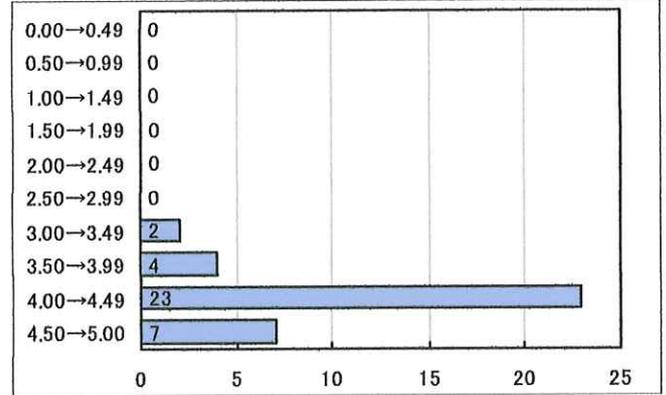
平均値 = 4.49

■経済学部



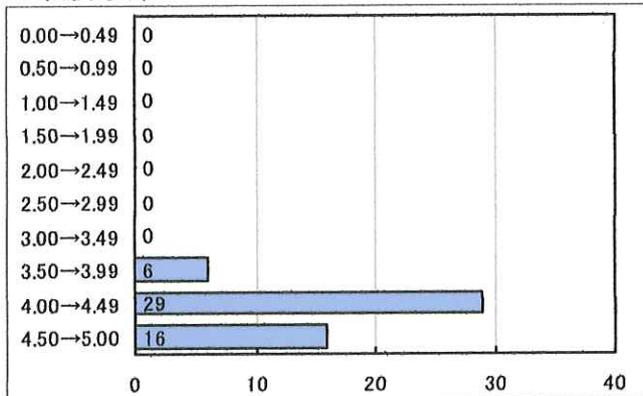
平均値 = 4.15

■人間生活科学部・管理栄養学科



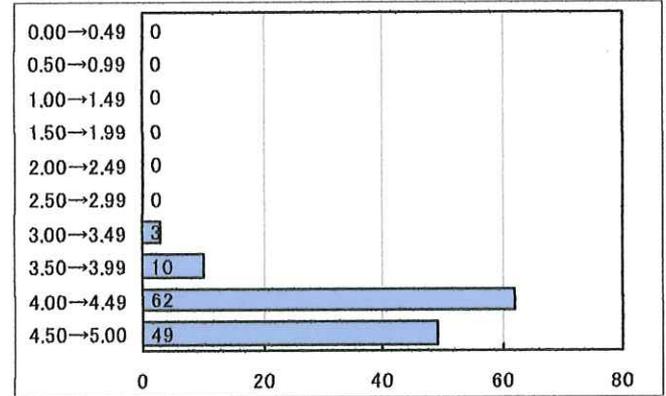
平均値 = 4.26

■経営学部



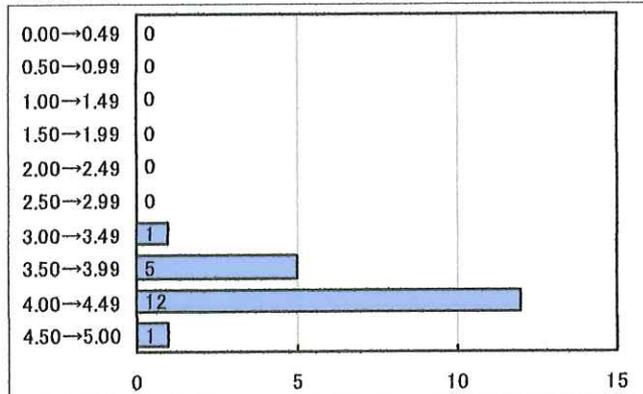
平均値 = 4.22

■非常勤



平均値 = 4.31

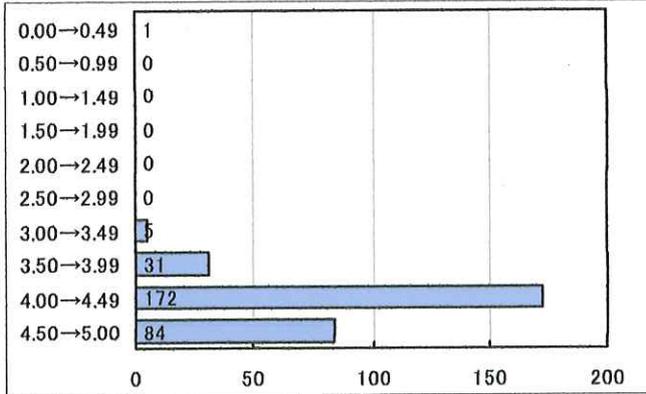
■法学部



平均値 = 4.18

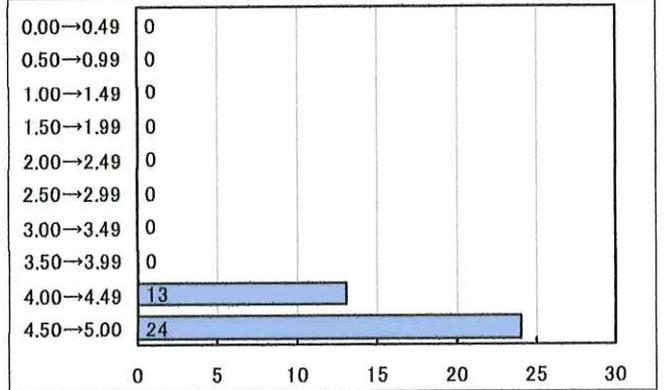
●5.この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか

■全体



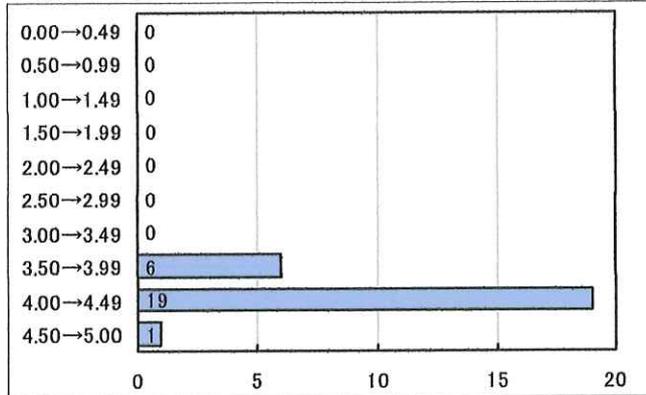
平均値 = 4.26

■人間生活科学部・教育保育学科



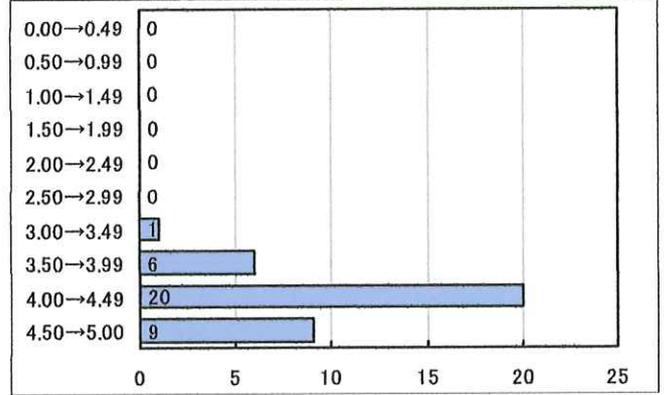
平均値 = 4.57

■経済学部



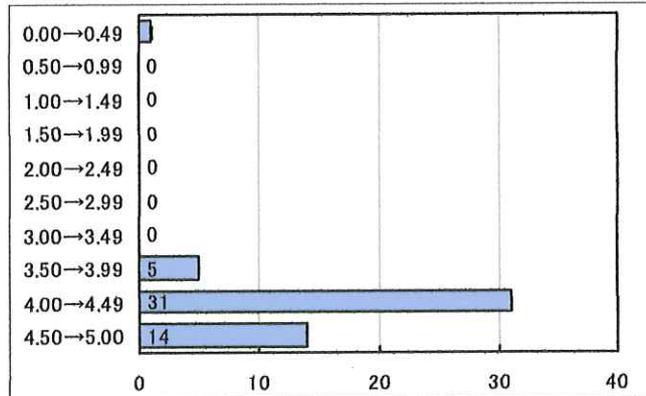
平均値 = 4.16

■人間生活科学部・管理栄養学科



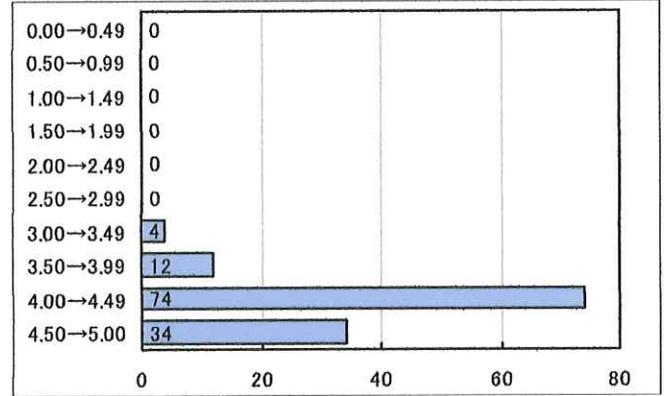
平均値 = 4.24

■経営学部



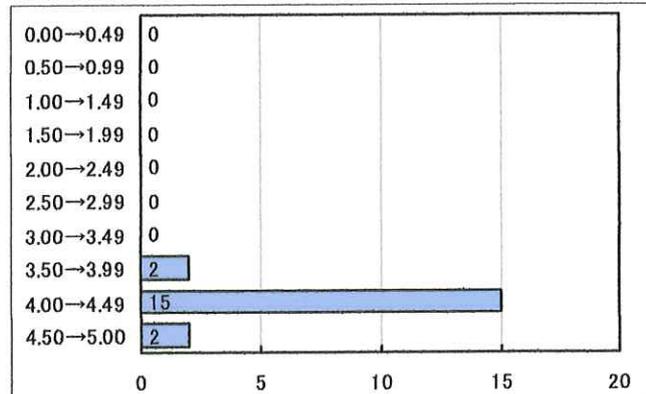
平均値 = 4.21

■非常勤



平均値 = 4.28

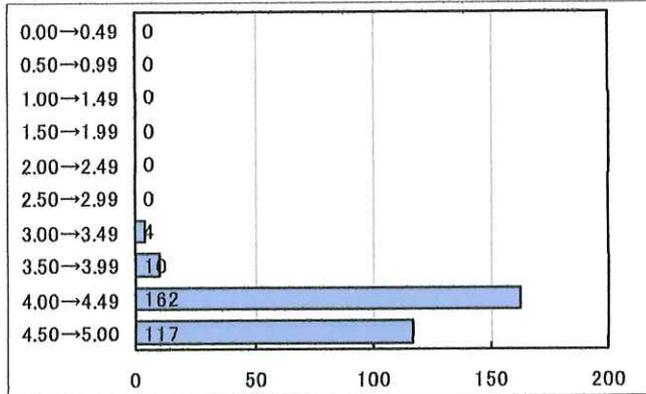
■法学部



平均値 = 4.22

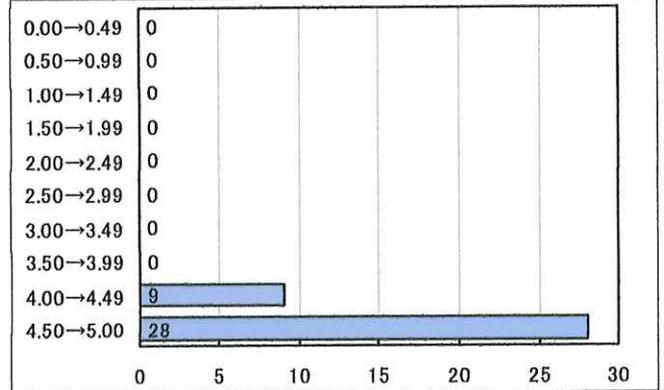
●6.教員の教え方には熱意があったと思いますか

■全体



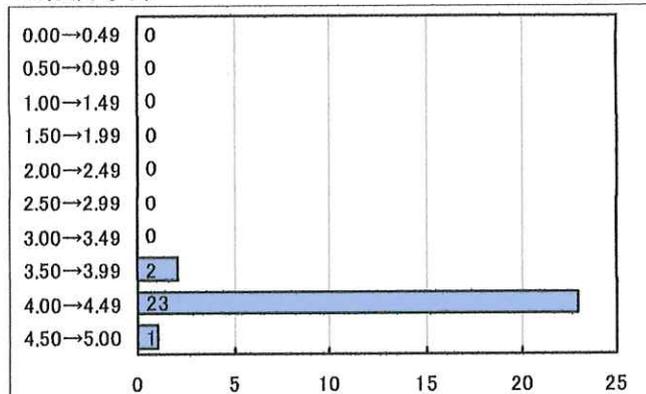
平均値 = 4.36

■人間生活科学部・教育保育学科



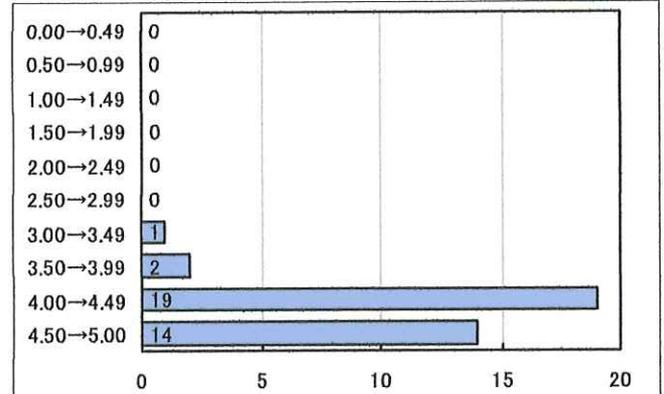
平均値 = 4.62

■経済学部



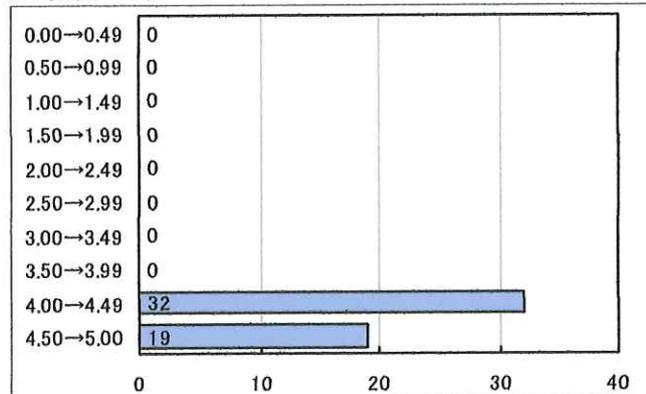
平均値 = 4.26

■人間生活科学部・管理栄養学科



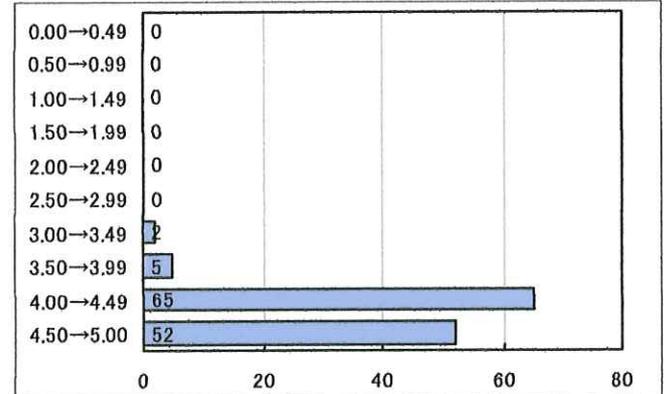
平均値 = 4.36

■経営学部



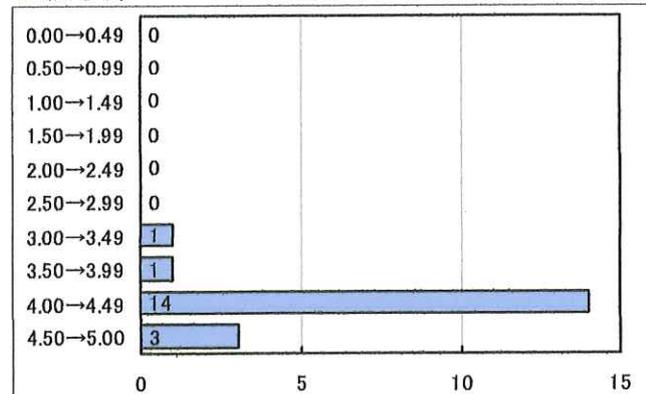
平均値 = 4.34

■非常勤



平均値 = 4.37

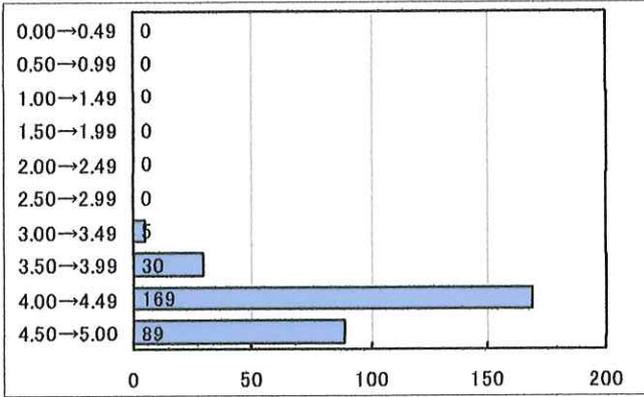
■法学部



平均値 = 4.32

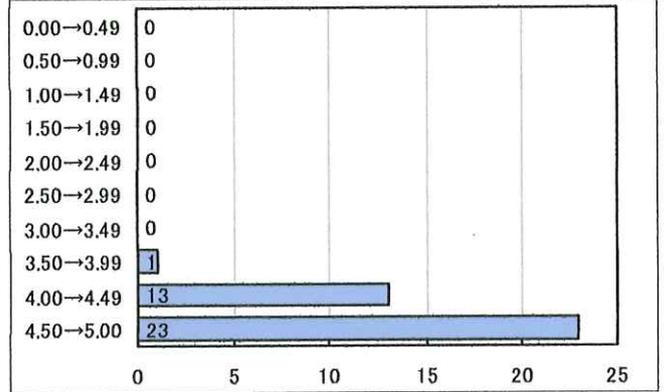
●7.授業の速さや進め方は適切だったと思いますか

■全体



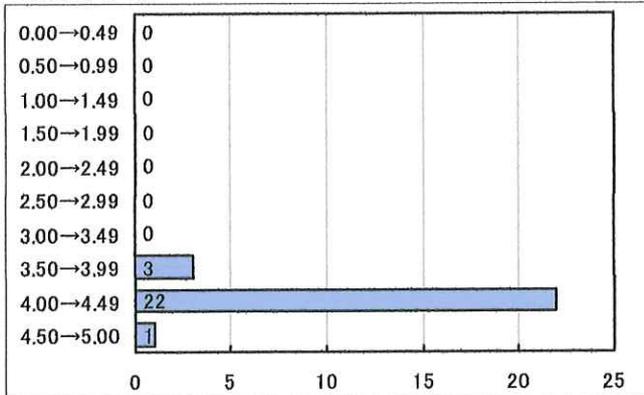
平均値 = 4.28

■人間生活科学部・教育保育学科



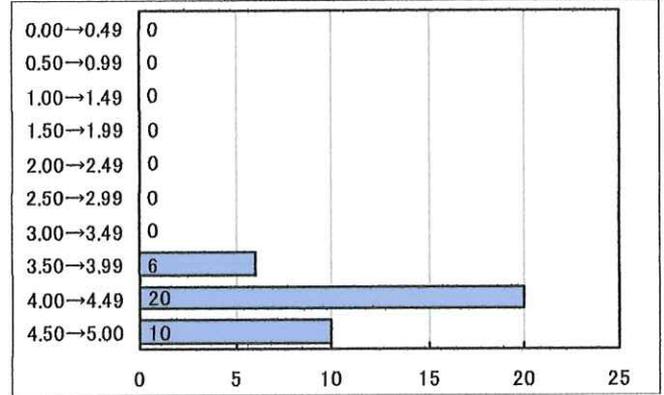
平均値 = 4.53

■経済学部



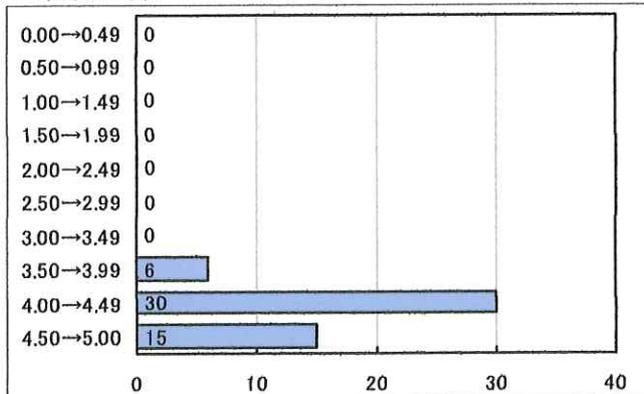
平均値 = 4.21

■人間生活科学部・管理栄養学科



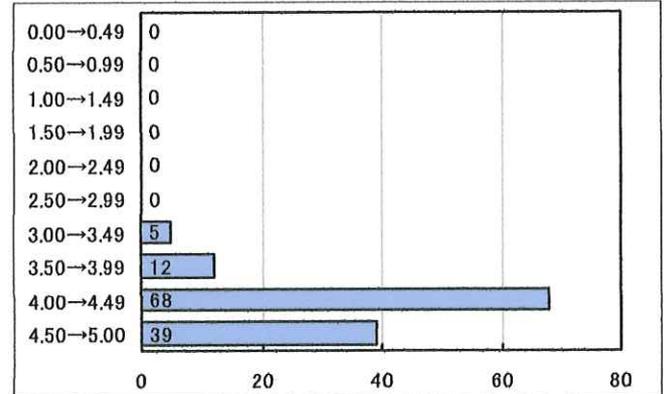
平均値 = 4.28

■経営学部



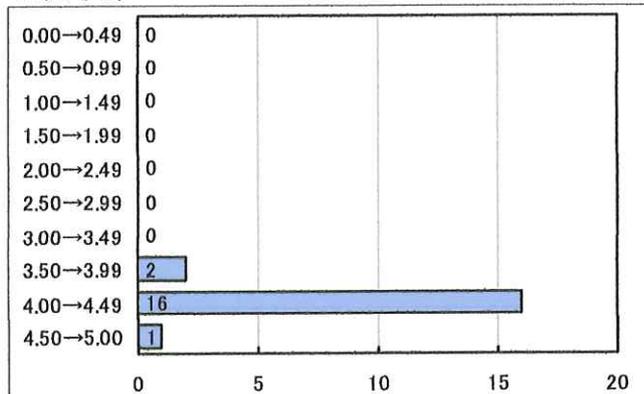
平均値 = 4.24

■非常勤



平均値 = 4.28

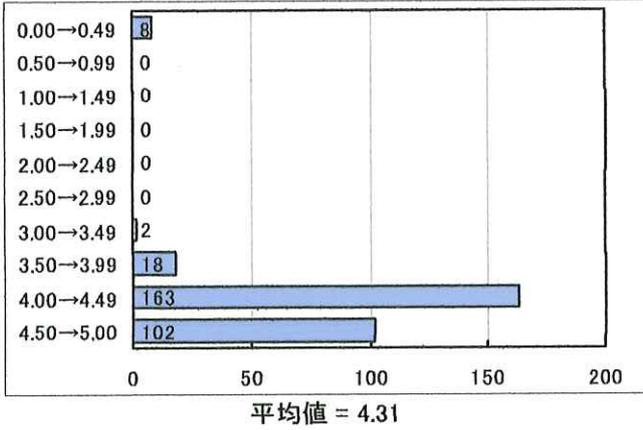
■法学部



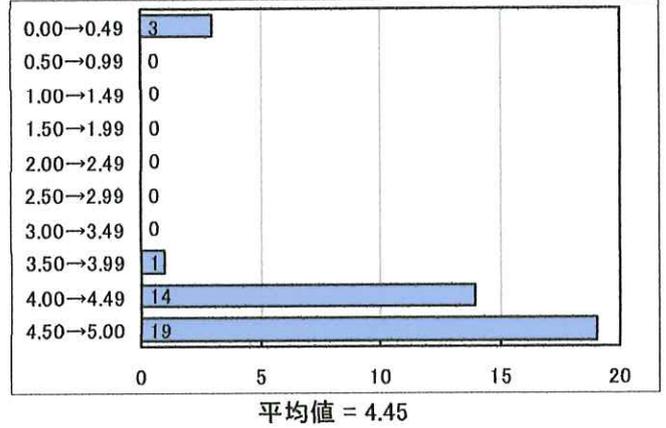
平均値 = 4.23

●8.教科書・配布資料は活用されていたと思いますか

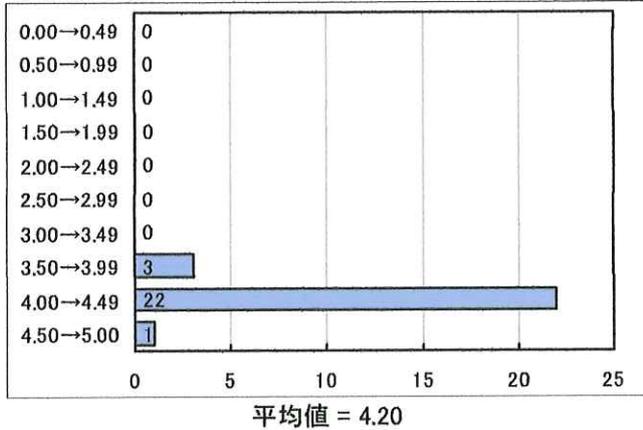
■全体



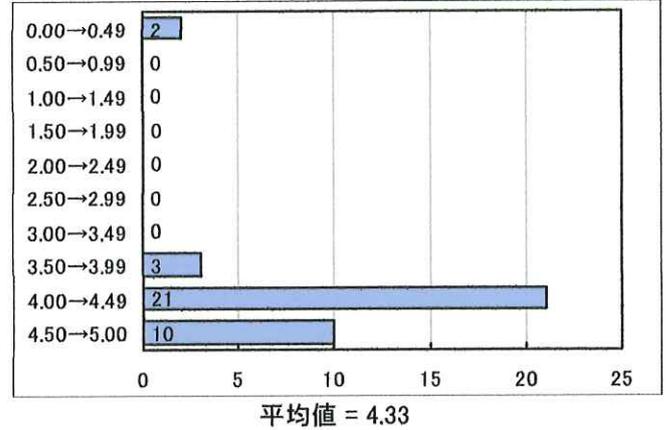
■人間生活科学部・教育保育学科



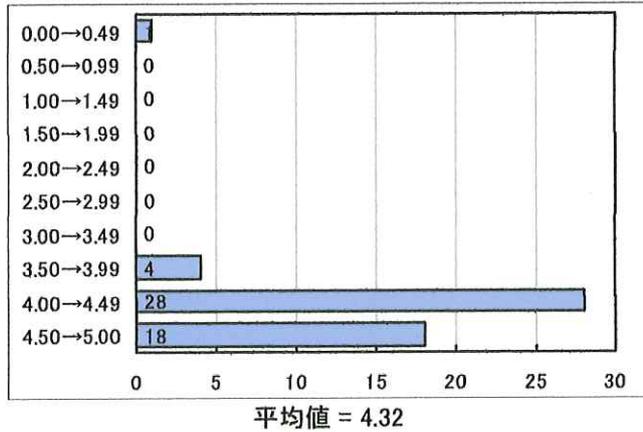
■経済学部



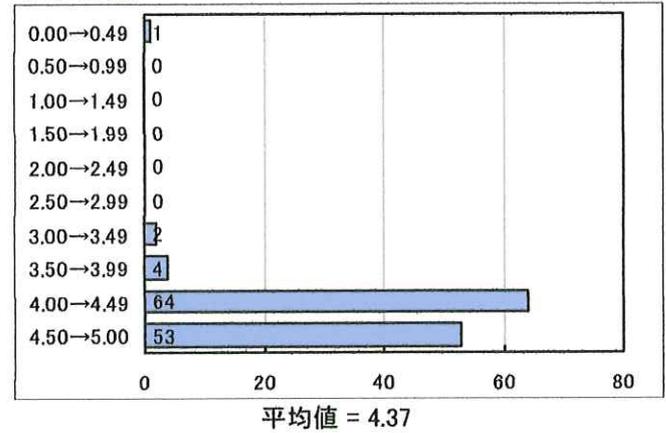
■人間生活科学部・管理栄養学科



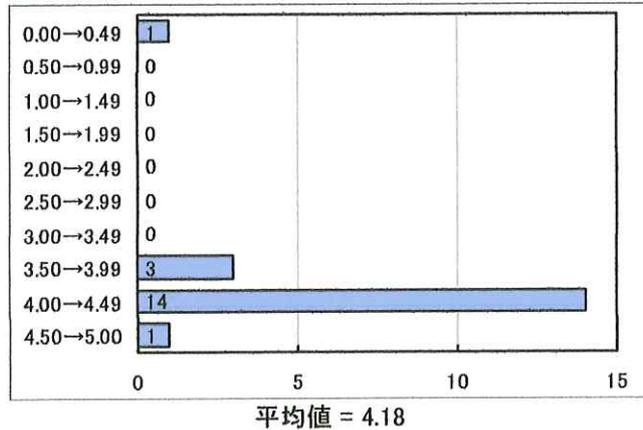
■経営学部



■非常勤

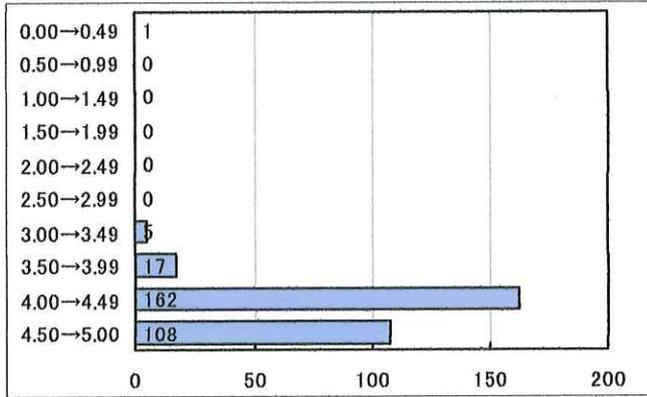


■法学部



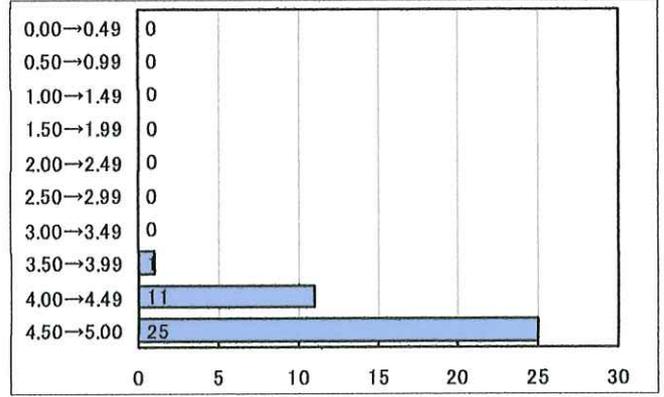
●9.板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか

■全体



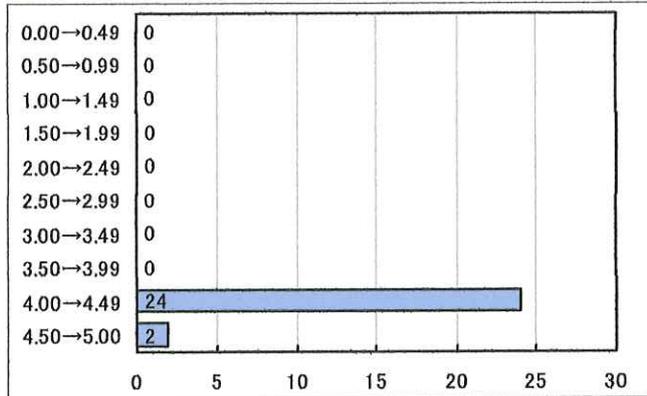
平均値 = 4.31

■人間生活科学部・教育保育学科



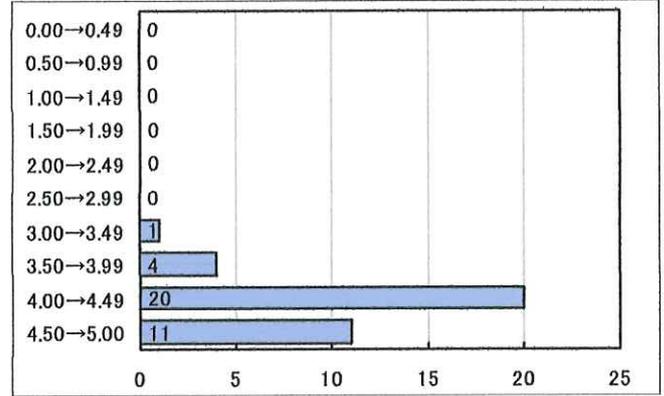
平均値 = 4.56

■経済学部



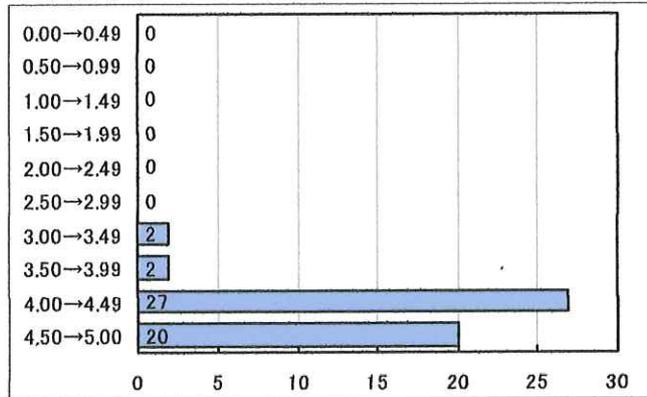
平均値 = 4.27

■人間生活科学部・管理栄養学科



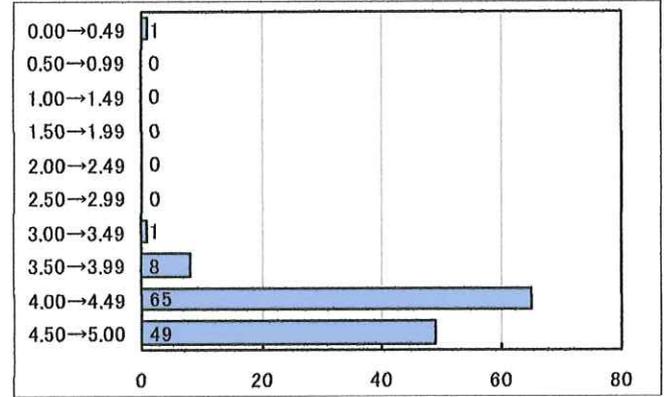
平均値 = 4.33

■経営学部



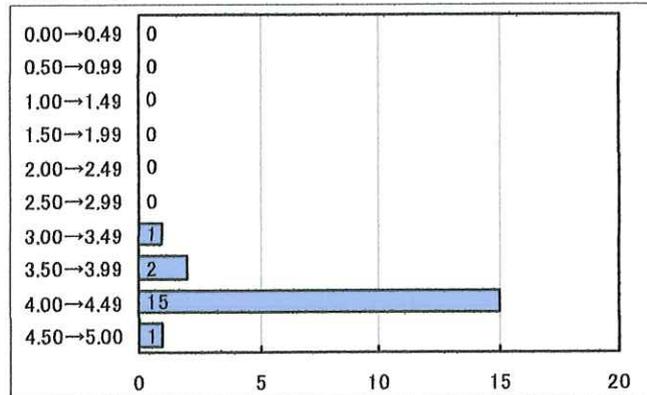
平均値 = 4.24

■非常勤



平均値 = 4.36

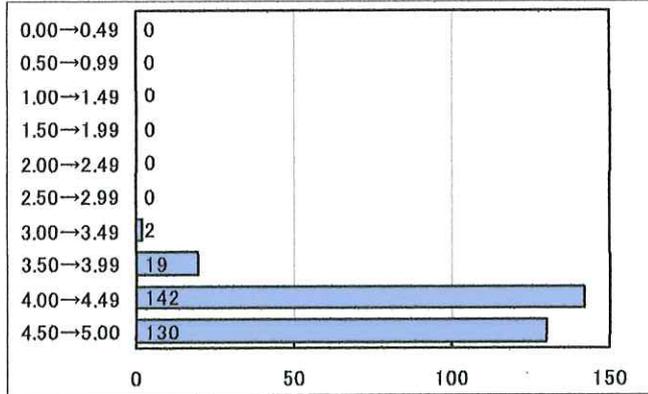
■法学部



平均値 = 4.20

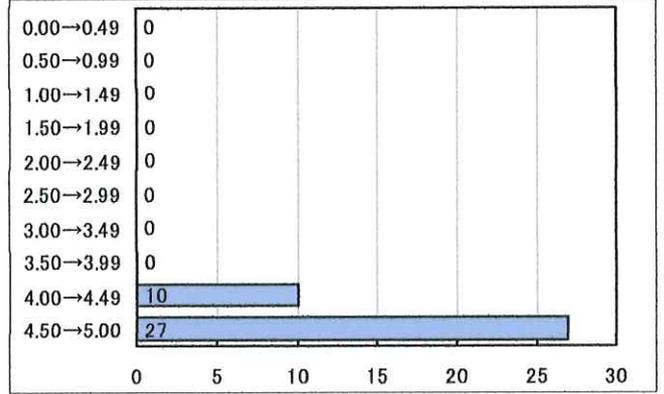
●10.教員の声は聞き取りやすかったですか

■全体



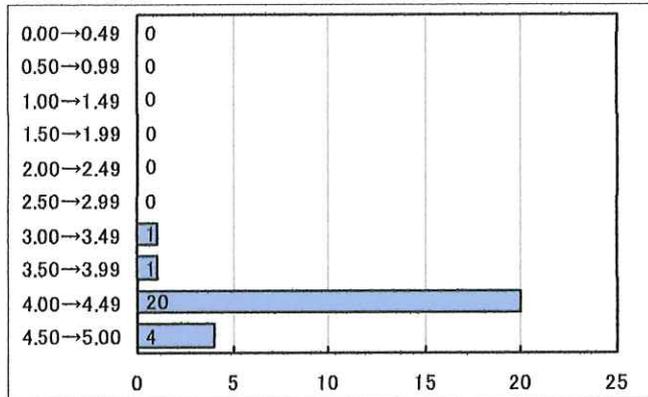
平均値 = 4.37

■人間生活科学部・教育保育学科



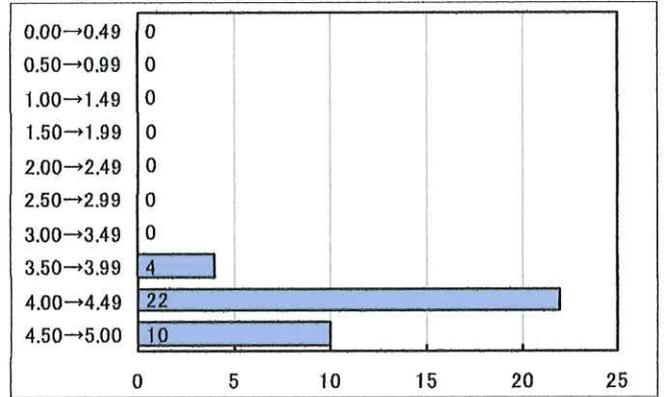
平均値 = 4.60

■経済学部



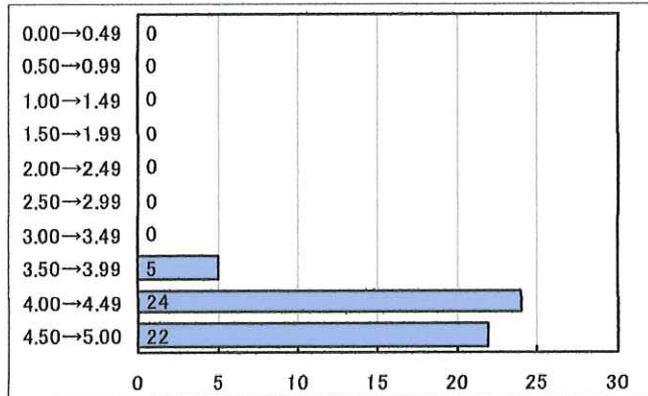
平均値 = 4.30

■人間生活科学部・管理栄養学科



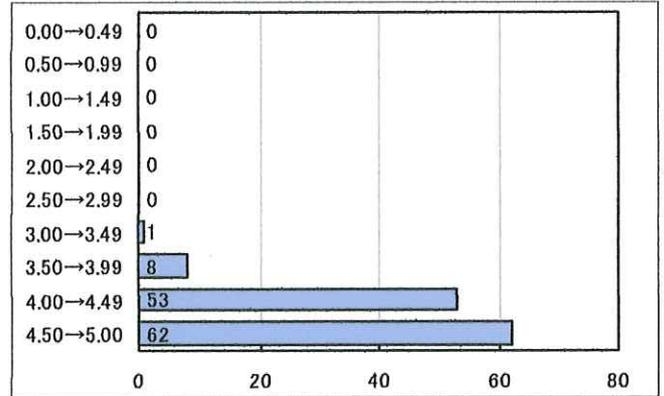
平均値 = 4.35

■経営学部



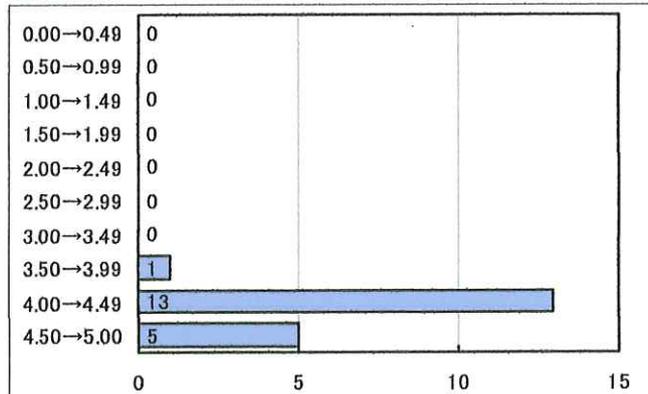
平均値 = 4.33

■非常勤



平均値 = 4.41

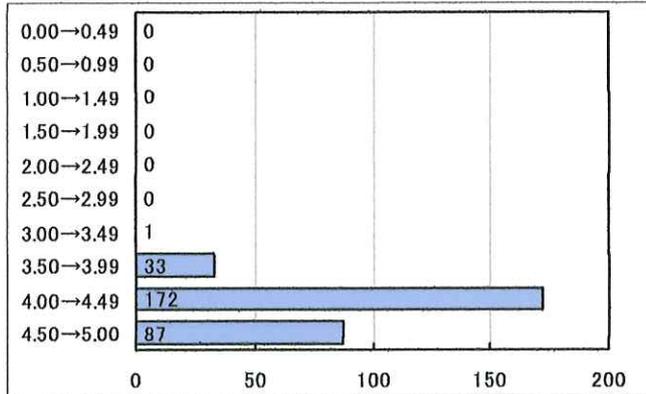
■法学部



平均値 = 4.30

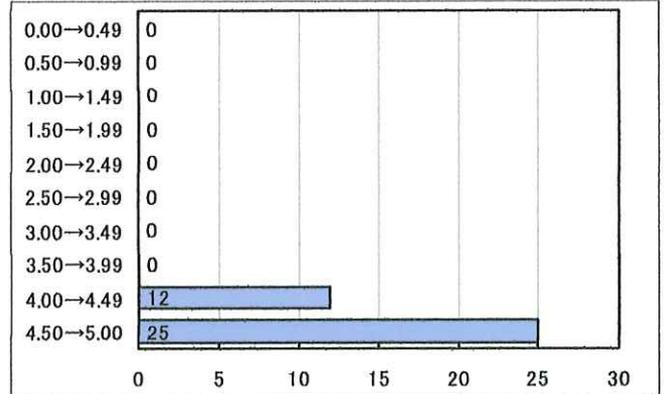
●11.一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか

■全体



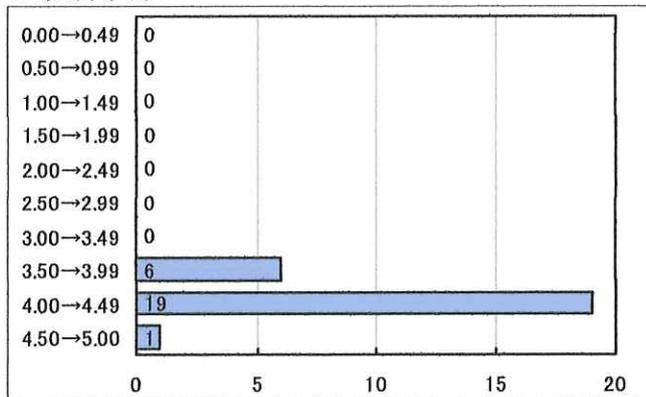
平均値 = 4.27

■人間生活科学部・教育保育学科



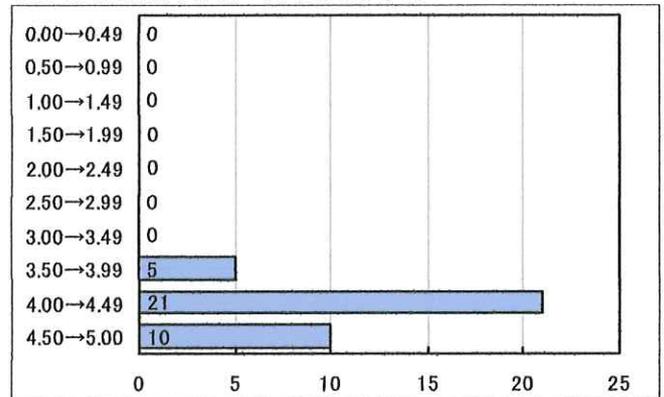
平均値 = 4.55

■経済学部



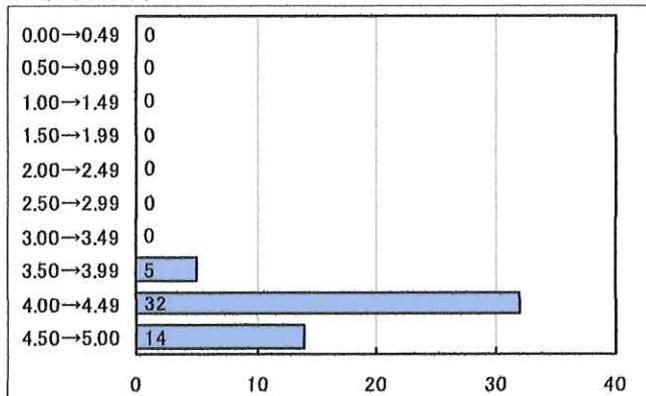
平均値 = 4.14

■人間生活科学部・管理栄養学科



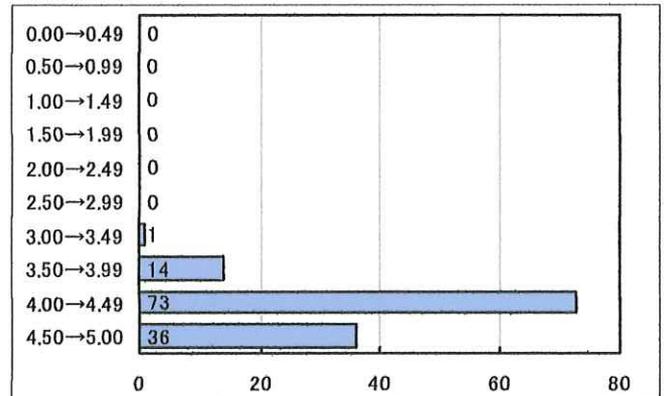
平均値 = 4.32

■経営学部



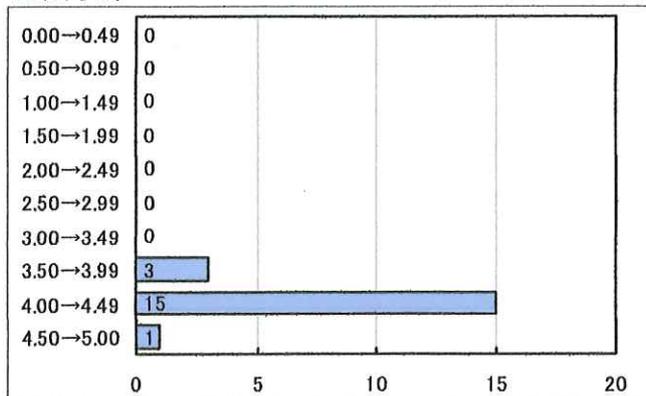
平均値 = 4.24

■非常勤



平均値 = 4.31

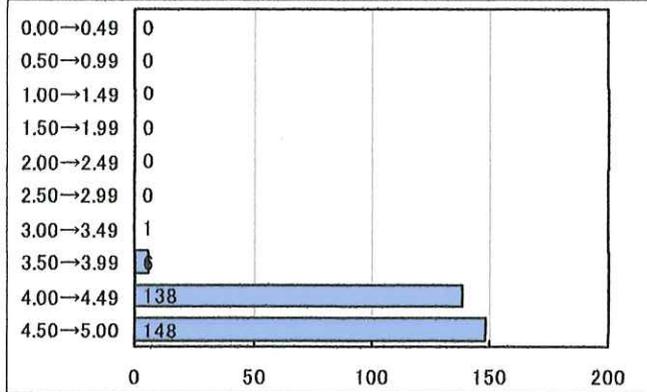
■法学部



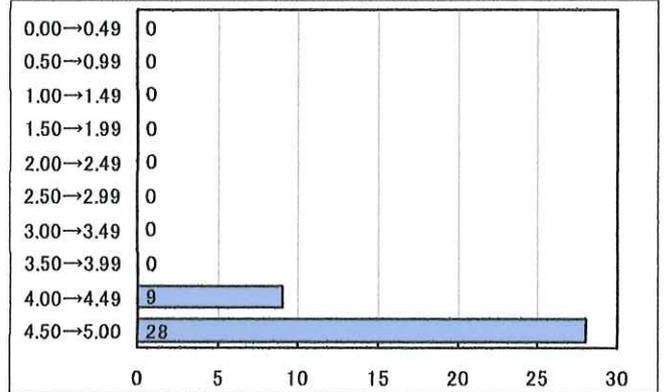
平均値 = 4.21

●12.教員は授業時間を守っていたと思いますか

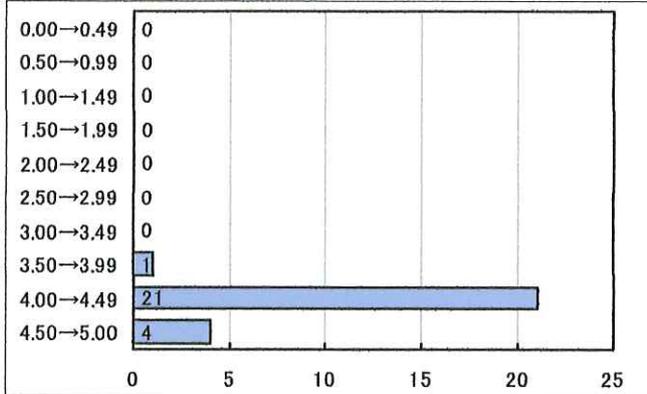
■全体



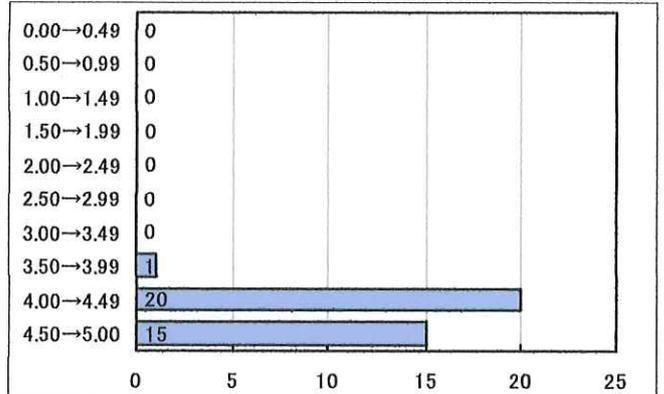
■人間生活科学部・教育保育学科



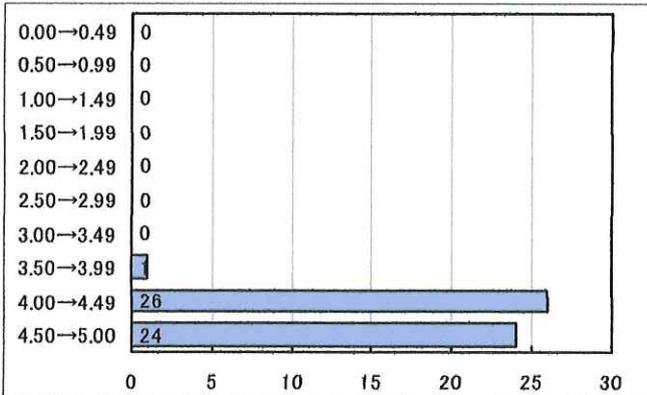
■経済学部



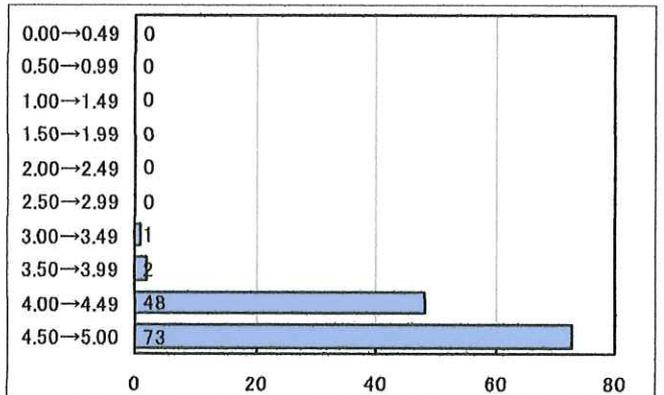
■人間生活科学部・管理栄養学科



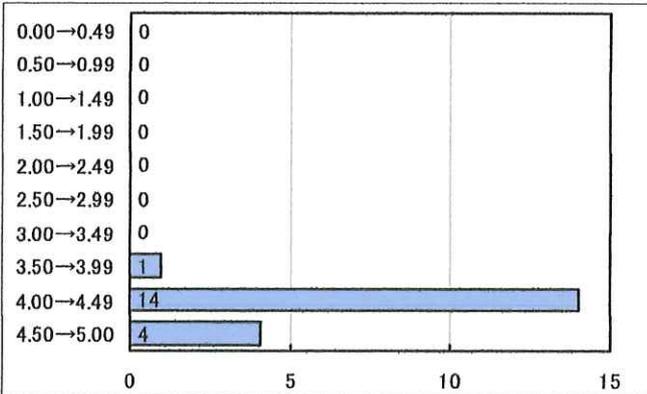
■経営学部



■非常勤

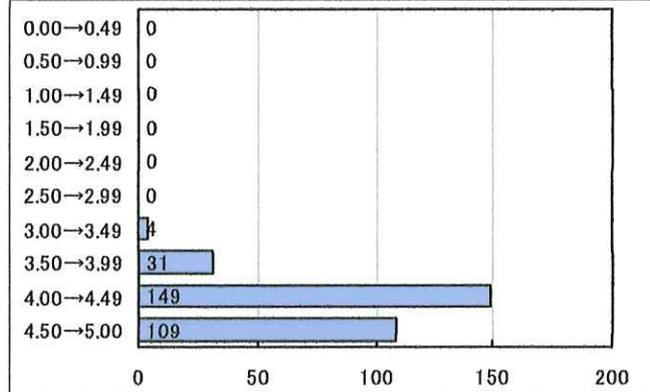


■法学部



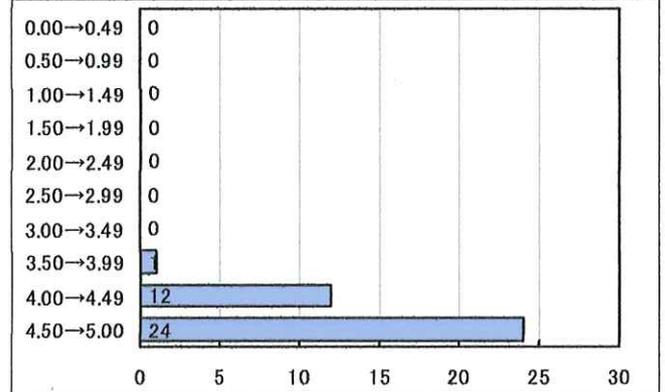
●13.この授業の教え方はよいですか(この項目の結果はエクセレントティーチャーの表彰に用いられます)

■全体



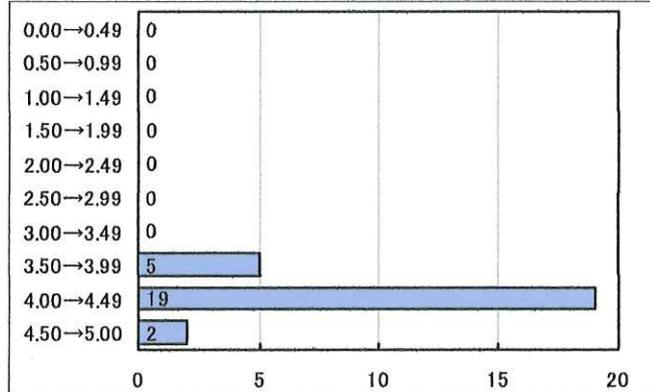
平均値 = 4.29

■人間生活科学部・教育保育学科



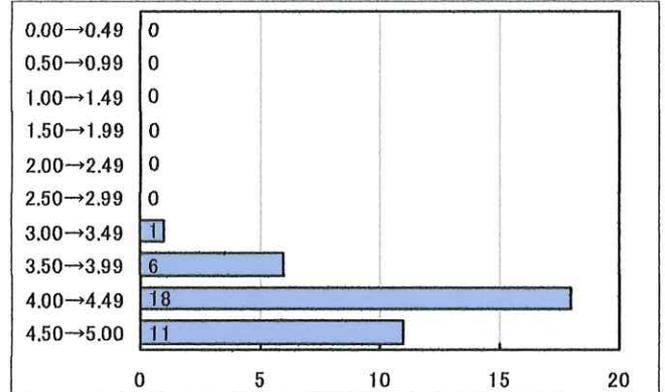
平均値 = 4.52

■経済学部



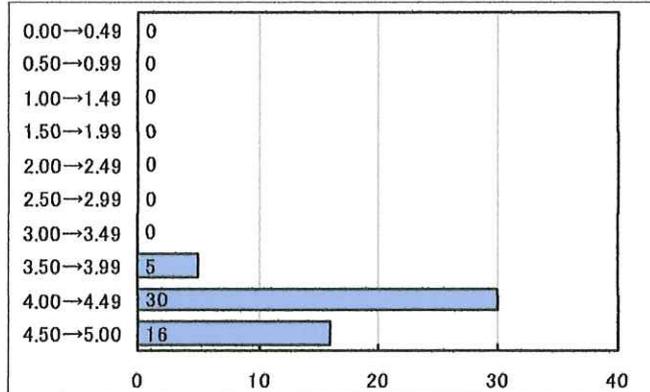
平均値 = 4.20

■人間生活科学部・管理栄養学科



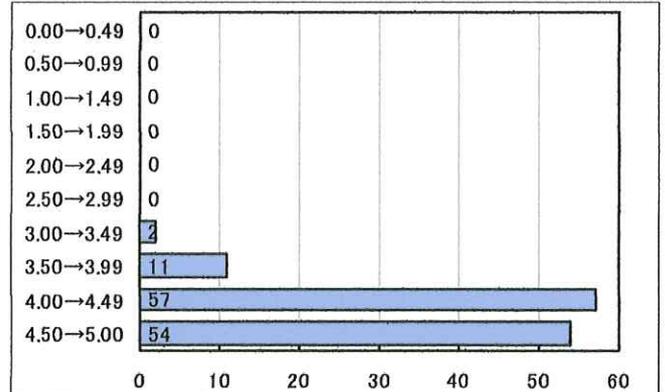
平均値 = 4.31

■経営学部



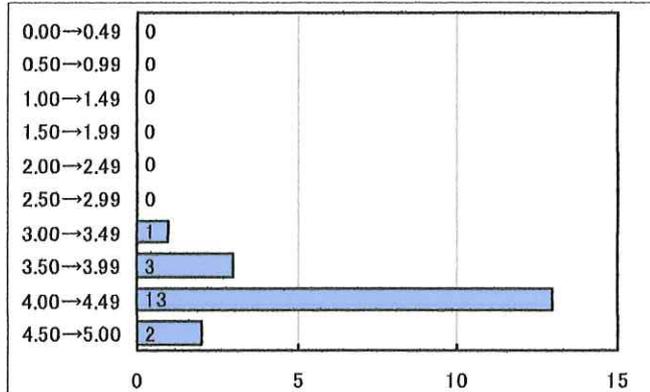
平均値 = 4.27

■非常勤



平均値 = 4.33

■法学部



平均値 = 4.21

2025年度 経済学部授業評価アンケート報告書

目次

第1章 本調査の位置づけと実施概要（表1：経済学部在籍学生数および留学生数の推移）

- 1.1 本報告書の目的と分析方針
- 1.2 アンケート分析方法
- 1.3 学生構成の推移とその背景
- 1.4 学生構成の変化を踏まえた今後の視点

第2章 アンケート回答率（表2：経済学部および全学の回答率の推移）

- 2.1 アンケート回答率の推移
- 2.2 回答率低下にみる統計的影響と改善に向けた視点と対応方針

第3章 アンケートの設問別にみた結果（表3：経済学部教員による開講科目における各設問の平均値）

- 3.1 設問別にみた特徴と解釈
- 3.2 設問別の総括的傾向

第4章 学生の属性別・学年別にみた結果（表4.1：学生属性別にみた各設問平均値）（表4.2：学年別にみた各設問平均値）

- 4.1 属性別の設問比較・年度比較・属性別特徴・考察
- 4.2 学年別の設問比較・年度比較・学年別特徴・考察

第5章 クラスサイズ別集計結果（表5-1：2024年度前期 クラスサイズ別にみた各設問平均値）（表5-2：2025年度前期 クラスサイズ別にみた各設問平均値）

- 5.1 クラスサイズ別集計の概要
- 5.2 クラスサイズ別評価の特徴
- 5.3 総括および授業改善に向けた示唆

第6章 設問II（授業環境・統制）と関連設問（授業理解・教材提示）との相関分析（表6：全学および経済学部 設問II×設問4・8・9・10のクロス集計結果）

- 6.1 クロス集計にもとづく分析（全学・経済学部）
- 6.2 まとめ

第7章 専門共通基礎科目の比較分析（表7：専門共通基礎I・II科目における設問4・設問5・設問IIのクラス・学生属性別比較）

- 7.1 専門共通基礎I「市民生活と経済」
- 7.2 専門共通基礎II「戦後日本経済の動き」「地域経済と産業」
- 7.3 専門共通基礎I・IIの比較と2024年度報告との関係
- 7.4 教育的示唆と総括

第8章 総括

- 8.1 2025年度前期授業評価結果の位置づけ
- 8.2 学生構成の変化と評価への影響
- 8.3 授業統制と「わかりやすさ」の二重構造
- 8.4 2025年度結果の総括
- 8.5 今後の分析に向けた課題と展望

第1章 本調査の位置づけと実施概要

1.1 本報告書の目的と分析方針

本報告書は、経済学部所属教員が開講した26科目を対象として、2025年度前期末に実施した授業評価アンケートの結果を分析するものである。昨年度の報告書に沿った分析枠組みを継続しつつ、学生の授業意識、授業理解、授業の明瞭性、教材活用状況、教員による説明や音声の明瞭性、学習環境管理など、授業の質に関わる要素を把握することを目的とする。

本報告では、アンケートの回答率（第2章）を確認した上で、設問別の傾向（第3章）、学生属性別の特徴（第4章）、クラスサイズ別の評価（第5章）、設問間の相関構造（第6章）、さらに初年次必修である専門共通基礎科目の検討（第7章）へと分析・考察を進める。

1.2 アンケート分析方法

アンケートは設問1～13から構成され、各設問の回答について5件法リッカート尺度*により平均値を算出し、平均値を統計的な指標として分析した。

*5件法リッカート尺度： 5=強く思う、4=そう思う、3=どちらともいえない、2=そう思わない、1=まったく思わない

分析にあたり、2024年度前期のデータを主要な比較基準とし、必要に応じて2023年度前期の結果を参照した。また、全学平均値との比較を通して経済学部の特徴について考察し、授業改善に資する基礎資料とする。

1.3 学生構成の推移とその背景

表1に示すとおり、経済学部では近年、留学生の受入が急速に進み、学生構成に大きな変化が生じている。この構成変化は、授業理解や評価傾向に影響を及ぼす可能性が高いことから、分析の前提として2023年前期～2025年度前期における在籍者数および留学生数の推移を整理した。

表1 経済学部在籍学生数（2023年7月1日現在、2024年7月1日現在、2025年7月1日現在）

年度	経済学部全在籍学生数			内、留学生数			留学生比率		
	2023	2024	2025	2023	2024	2025	2023	2024	2025
1年次	148	153	155	18	50	58	12.2%	32.7%	37.4%
2年次	165	140	148	18	14	48	10.9%	10.0%	32.4%
3年次	162	159	134	20	23	14	12.3%	14.5%	10.4%
4年次	158	181	173	25	21	25	15.8%	11.6%	14.4%
合計	633	633	610	81	108	145	12.8%	17.1%	23.8%

2025年度の経済学部在籍者数は610名で、2023年度・2024年度の633名から23名減少した。一方、留学生数は2023年度の81名から2025年度には64名増加の145名となった。留学生比率は12.8%から23.8%へと急上昇している。特に1年次では37.4%、2年次では32.4%と、初年次層で学生層の多様化が急速に進行している。全学では、学部在籍総数2,111名（2025年6月1日現在）のうちの約17%（=20%弱）が留学生で、その数は360名（同年5月1日現在）経済学部の23.8%という比率は全学平均を大きく上回っている。経済学部では全学よりも一段と国際化が進みつつあり、日本語能力・学習背景の異なる学生が多数を占める状況が形成されつつあるといえる。

1.4 学生構成の変化を踏まえた今後の視点

このような学生構成の変化は、授業理解・授業運営・学習支援の在り方に直接的な影響を及ぼすため、学部としての教育的対応がこれまで以上に求められる局面にある。日本語教育の強化、専門基礎科目の設計見直し、多文化学習環境に適応した授業運営・学習支援体制の整備・充実など、本報告書では、アンケートの分析を通じてこうした教育的課題に対して現行の授業がどのように応答しているかを検証し、今後の授業改善に向けた具体的な示唆を得ることを目的とする。

第2章 アンケート回答率

本章では、2023年度～2025年度前期に実施されたアンケートの回答率の推移を整理し、全学比較を通じて回答率にみる経済学部への傾向を検証する。経済学部および全学の回答率の推移は表2のとおりである。

表2 経済学部教員による開講科目の回答率（2023年度前期・2024年度前期・2025年度前期の比較）

		対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数(F)	回答率(%) (F÷E)
経済学部	2023	3,656	3,656	1,998	54.65
	2024	3,548	3,548	1,879	52.96
	2025	3,478	3,478	1,761	50.63
全学	2023	18,510	18,389	12,022	65.38
	2024	18,742	18,742	11,715	62.51
	2025	18,040	18,026	11,298	62.68

2.1 アンケート回答率の推移

経済学部の回答率は 54.65% → 52.96% → 50.63% と、3年間連続で低下した。一方で全学は63%前後を維持しており、経済学部特有の低下傾向が確認された。以下、回答率の低下が今回のアンケート結果にどのように影響しているのかについて、検証する。

2.2 回答率低下にみる統計的影響と改善に向けた視点と方針

経済学部では、授業評価アンケートの回答率が概ね50%で推移している。回答率は「履修登録者数」を分母として算出され、履修離脱者、欠席者、最終週の未参加者も分母に含まれるため、回答率が低ければ、回答者の意見が必ずしも経済学部全体の学生意識を代表しない可能性がある。

全学の回答率は、2024年度前期62.51%、2025年度前期62.68%とほぼ横ばいで推移しており、一定の安定性が確認される。また、全学集計データによれば、学部別の2025年度前期回答率は、経営学部58.0%、法学部55.1%、人間生活科学部は84.6%であり、経済学部の回答率はこれらと比較して最も低い回答率で推移している。

本章では、経済学部の回答率が3年間連続で低下していること、その背景として履修放棄者、欠席率が影響している可能性を指摘した。

以上を踏まえると、経済学部の授業評価結果をより正確に把握するためには、未回答者の状況や背景を分析し、回答率の改善も含めた評価精緻化の取り組みが今後の課題といえる。

今後は、回答率の向上に向けた運用改善とともに学生の多様化に応じたアンケート設計・分析態勢の整備に向けて、回答率の向上および評価結果の代表性の確保に向け、1) アンケート実施時の出席者数・未出席者数を記録し、欠席理由の分析（放棄理由・アルバイト・多忙など）を進め、回答率低下の直接的要因を可視化する、2) 学生の自由意志を尊重しつつ、アンケート授業内実施とオンライン回答の併用、設問数や内容の見直し、実施時期の分散化など、学生の回答しやすい具体策を検討する、3) 多文化・多言語環境に対応した留学生向けの英語・ベトナム語・中国語など、主要言語によるアンケートフォームを作成し、理解度向上と回答率増加を目指すことが考えられる。

第3章 アンケートの設問別にみた結果

本章では、アンケートの経済学部教員による開講科目全体の設問別平均値について、2023年度前期・2024年前期・2025年度前期および全学との比較を行い、その特徴と傾向を整理する。

表3 経済学部教員による開講科目における各設問の平均値

	設問	2023前期 経済学部	2024前期 経済学部	2025前期 経済学部	2024前期 全学	2025前期 全学
1	この授業によく出席しましたか	4.05	4.00	4.09	4.09	4.12
2	予習・復習を含めこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	3.99	4.05	4.13	4.17	4.23
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか	4.28	4.30	4.34	4.38	4.42
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	4.12	4.07	4.15	4.17	4.26
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	4.03	4.08	4.16	4.18	4.26
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.16	4.18	4.26	4.29	4.36
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	4.08	4.14	4.21	4.21	4.28
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか	4.11	4.15	4.20	4.25	4.31
9	板書・スクリーン・モニター等は見やすく示されていたと思いますか	4.11	4.19	4.27	4.25	4.31
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか	4.14	4.23	4.30	4.31	4.37
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は適切だったと思いますか	4.07	4.10	4.14	4.19	4.27
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか	4.25	4.31	4.36	4.39	4.43
13	この授業の教え方はよいですか	4.04	4.13	4.20	4.22	4.29

3.1 設問別にみた特徴と解釈

2024年度報告書では、設問1「出席」と設問4「授業のわかりやすさ」が課題として指摘されている。2025年度前期では、これらの設問も含めて全13設問すべての平均値は2023年度結果から上昇している。指導方法の改善や授業運営の工夫により、学生自身による授業への取組・授業内容・教員の説明・教材提示・授業時間遵守・学習環境などにみる前年の課題は一定程度クリアされたものと推測される。全学平均値でも概ね上昇が見られ、全学的に授業改善が進んだ一年であったと推察される。

以下では、回答者の範囲での設問別の結果とその特徴について検討する。

1. 受講姿勢（設問1・設問2）

設問1「出席」4.09および設問2「意欲」4.13は、2023年度から平均値が上昇しており、受講姿勢の向上が示唆されるが、両設問ともに平均値としては相対的に低く、引き続き改善のための対策の検討が必要と考える。

2. 授業運営の適切性（設問3・7・12）

設問3「教員のシラバス遵守」および設問12「教員の授業時間の遵守」は、いずれも例年高水準を示している。2025年度においても最も高い平均値を示した。設問7「授業の速さ・進め方」についても高い上昇となっている。

3. 授業内容の理解・教員の熱意・教え方（設問4・6・13）

設問4「授業内容のわかりやすさ」、設問6「教員の熱意」、設問13「教員の教え方」のいずれも上昇しており、授業改善への取組が一定程度反映されたといえる。ただし、設問4「授業内容のわかりやすさ」については、2024年度より上昇しているとはいえ平均値は4.15と低く、この点の分析は今後の課題として残される。

4. 学習環境（設問8・9・10）

設問8「教材の活用」、設問9「板書・スクリーン・モニターの見やすさ」、設問10「教員の声の聞き取りやすさ」は、いずれも平均値が上昇している。設問9と設問10については相対的に評価が高い。ICT設備の更新や教材提示方法の改善が評価に反映されたと考えられる。

5. 授業妨害への教員の対応（設問11）

授業の妨げに対する教員の対応についても、2023年度前期の4.07から2025年度前期には4.14へ上昇し、教員による授業規律管理が改善したことが読み取れる。とはいえ相対的に評価は低く、今後の検討課題といえる。

3.2 設問別の総合的傾向

以上のとおり、相対的に平均値の低い評価はあるものの、回答者の範囲では13項目すべての平均値が上昇している。授業運営・教材提示・学習環境など幅広い領域で改善傾向が認められる。

第4章 学生の学生属性別・学年別にみた結果—属性による特性

本章では、授業評価アンケートにおける学生の回答傾向を、「属性」に基づいて比較する。属性とは、学生集団を特定の特徴で分類するためのカテゴリー（質的変数）を指し、本アンケートでは、学習背景・学業状況・参加形態などに影響を及ぼす要因を把握するための分析軸を指す。学生を分類する属性には、留学生／スポーツ推薦学生／その他の学生といった学習背景による区分のほか、1年次～4年次といった学年区分も含まれる。

本報告書では、分析の目的と授業改善の実務的意義を踏まえ、4.1節では、表4のデータをもとに、学習背景の違いに基づく「属性区分」として、全体（全学生）、留学生、スポーツ推薦学生、それ以外の学生（一般学生）の各カテゴリーにおける評価の違いを比較し、回答傾向の特徴を整理する。学年ごとの比較は、学習段階やカリキュラム構造の違いを明らかにするため、4.2節で整理する。

4.1 属性区分別の設問比較・年度別比較および学生属性別の特徴と総合的考察

本節では、属性区分別の設問ごとの比較を行い、属性間の平均値・傾向を把握し、どの属性がどの程度評価しているかを可視化する。記述のとおり、属性として、① 留学生、② 留学生を除く学生、③ スポーツ推薦入学者（以下「スポーツ学生」）、④ スポーツ学生を除く学生、⑤ 全学生の5区分とし、属性別に設問別平均値を比較する。留学生は、日本語運用能力、学習履歴、学習文化等が異なることから、授業理解や学習行動に独自の傾向がみられる可能性があり、また、スポーツ学生は強化指定クラブ活動と学習を両立する必要があり、学習時間の制約や生活リズムの違いが授業評価に影響することが考えられるため、属性を上記5区分に分け、それぞれの評価傾向を検討することとした。

表4.1-1 2024年度経済学部教員開講科目における各設問平均値—属性別比較

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均値
全学生	4.0	4.1	4.3	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.4	4.2	4.18
留学生のみ	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.4	4.4	4.2	4.5	4.4	4.36
留学生を除く	3.9	4.0	4.3	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.2	4.2	4.1	4.3	4.1	4.14
スポーツ学生のみ	4.1	4.4	4.5	4.4	4.4	4.5	4.4	4.4	4.5	4.4	4.4	4.5	4.4	4.41
スポーツ学生を除く	4.0	4.1	4.3	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.4	4.2	4.18

表 4.1-2 2025 年度経済学部教員開講科目における各設問平均値—属性別比較

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均値
全学生	4.1	4.2	4.4	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.4	4.2	4.4	4.3	4.27
留学生のみ	4.5	4.5	4.5	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4	4.4	4.5	4.3	4.5	4.4	4.42
留学生を除く	3.9	4.1	4.4	4.2	4.1	4.3	4.2	4.3	4.2	4.3	4.2	4.4	4.2	4.22
スポーツ学生のみ	4.2	4.4	4.4	4.3	4.4	4.4	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.33
スポーツ学生を除く	4.1	4.2	4.4	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.4	4.2	4.4	4.3	4.27

全学生については、13 設問の平均値は 2024 年度前期の 4.18 から 2025 年度前期には 4.27 へと上昇し、いずれの属性も概ね高水準が維持され、全体としての評価の安定をみることができる。

留学生については、2024 年度前期の 13 設問の平均値の 4.36 から 2025 年度は 4.42 に評価が上昇し、全学平均値の 4.27 を上回る値を示している。また、どの属性よりも高い平均値となっている。1・2 年次で留学生比率が 3 割超となる中、言語的・文化的背景の異なる留学生に対する授業運営や支援が一定程度進み、留学生の授業理解や学習環境に対する満足度が上昇し、また、授業への前向きな姿勢がうかがえる。

スポーツ学生については、多くの設問で継続的な高評価を挙げることができる。13 項目の平均値は、2024 年度前期の 4.41 からわずかな低下がみられるものの、「スポーツ学生以外」の平均値 4.27 を上回る 4.33 を示している。授業への肯定的な態度・満足感がうかがわれ、クラブ活動と学習との両立に伴う充実感などが授業評価に反映されていると考えられる。

上記のとおり、留学生およびスポーツ学生は両年度を通じて一貫して高い評価を示し、また、属性間の差は相対的に小さく、いずれの属性群も概ね 4.3~4.4 の高水準に位置している。

4.2 学年別の設問比較・年度別比較および学年別の特徴と総合的考察

表 4.2-1 および表 4.2-2 は、2024 年度前期および 2025 年度前期における学年別の各設問に対する平均値を示したものである。

表 4.2-1 2024 年度経済学部教員開講科目における設問別平均値の学年別比較

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均値
1 年生	4.4	4.2	4.4	4.2	4.2	4.4	4.2	4.3	4.3	4.4	4.2	4.5	4.3	4.31
2 年生	3.9	4.1	4.4	4.1	4.1	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.1	4.4	4.1	4.18
3 年生	4.0	4.1	4.2	4.0	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.12
4 年生	3.6	3.9	4.3	4.1	4.1	4.2	4.1	4.1	4.1	4.2	4.1	4.2	4.1	4.08

表 4.2-2 2025 年度経済学部教員開講科目における設問別平均値の学年別比較

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	平均値
1 年生	4.3	4.1	4.4	4.2	4.1	4.3	4.1	4.2	4.2	4.3	4.1	4.4	4.3	4.23
2 年生	4.2	4.3	4.5	4.3	4.4	4.5	4.4	4.4	4.5	4.5	4.4	4.5	4.4	4.41
3 年生	3.8	4.0	4.4	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.1	4.3	4.2	4.20
4 年生	3.5	4.1	4.3	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2	4.3	4.3	4.2	4.3	4.2	4.18

2024年度と2025年度のどちらの年度においても、学年が上がるにつれて各設問に対する平均値がわずかに低下する傾向はあるが、学年別に平均値の変化をみると、1年生以外は、2年生から4年生それぞれの平均値が上昇している。特に、2年生については、各設問の平均値の高い上昇がみられる。

学年別の特徴については、下記のとおり、整理することができる。

1年生については、2024年度と比べて全体の平均値は4.31から4.23と低下し、設問ごとにみると、設問1（出席）、設問2（意欲）、設問13（教え方）以外は、それぞれ0.1%程度低下している。2025年度前期における1年生の留学生比率の37.4%への上昇という背景からは、大学生活への移行・適応期であることから学習文化や言語環境の違いが評価に影響している可能性がある。今後は、留学生と国内学生を区分した分析を行うことで、より精度の高い評価が可能となると考えられる。

2年生については、どの設問においても平均値が0.2～0.3%上昇し、設問全体の平均値は4.18から4.41に上昇している。学年間で最も高い平均値を示すことから、大学の授業形式や学習環境への適応が進み、学習の定着が評価に反映された可能性がある。

3年生と4年生については、どちらの年度においても学年が上がるにつれて平均値がわずかに低下する傾向はあるが、2025年度前期は、設問1（出席）以外の他の項目では前年度より0.1%程度の上昇がみられる。高年次層でも授業の質は一定の水準が維持されていると評価できる。4年生の設問1（出席）が相対的に低いのは、卒業研究・就職活動との両立を考えれば自然な傾向といえ、授業運営概ね安定していると考えられる。

以上より、設問1以外は、全学年で平均値は上昇し、学年間における授業運営・教育支援が安定していること、また、留学生比率の上昇や学生層の多様化が進む中でも、授業の質的水準は全体として安定していると評価できる。

第5章 クラスサイズ別集計結果

5.1 クラスサイズ別集計の概要

クラスサイズは、授業形式・教材設計・教室設備と密接に関連し、評価に一定の影響を与える可能性があることから、本章では、少人数クラス：1～50人、中規模クラス：51～100人、中～大規模クラス：101～200人、大規模クラス：201人以上（201～250人、251～300人、301人以上のクラスサイズ）に基づき、授業評価結果の傾向を比較する。2025年度前期の平均値は、表5-1に示すとおり、多くのクラス規模で4.1～4.4の範囲に収まっており、授業全体の評価は概ね良好である。そのうえで、規模による特徴を以下に整理する。

表5-1 2024年度経済学部教員開講科目における設問別ポイント平均値の、クラスサイズ別比較

設問 クラス サイズ(人数)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	経済学部 平均 値	全体 平均 値
1～50	3.8	4.5	4.0	4.5	4.8	4.7	4.7	4.7	4.3	4.4	4.3	4.8	4.7	4.48	4.4
51～100	3.6	3.8	4.1	3.7	3.7	4.0	3.8	3.8	3.9	3.7	3.9	4.1	3.8	3.84	4.2
101～150	4.0	4.1	4.3	4.1	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.2	4.1	4.3	4.1	4.15	4.2
151～200	4.2	4.1	4.3	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.3	4.4	4.2	4.4	4.2	4.22	4.2

201～250	3.8	4.1	4.3	4.1	4.1	4.2	4.2	4.1	4.3	4.3	4.2	4.3	4.2	4.17	4.0
251～300	4.1	3.8	4.0	3.6	3.7	3.8	3.9	3.8	3.8	4.0	3.6	4.1	3.6	3.83	4.2
301以上	3.9	4.1	4.4	4.2	4.2	4.3	4.2	4.3	4.3	4.3	4.2	4.3	4.2	4.22	4.2
平均	3.91	4.07	4.20	4.04	4.10	4.19	4.17	4.16	4.14	4.19	4.07	4.33	4.11		

表 5-2 2025 年度経済学部教員開講科目における設問別ポイント平均値の、クラスサイズ別比較

設問 クラス サイズ (人数)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	経済 学部 平均 値	全体 平均 値
1～50	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.2	4.4	4.4	4.2	4.5	4.2	4.35	4.4
51～100	4.1	4.1	4.4	4.0	4.0	4.2	4.0	4.0	4.1	4.1	4.0	4.3	4.1	4.11	4.3
101～150	3.9	4.0	4.3	4.1	4.2	4.3	4.2	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.2	4.18	4.3
151～200	4.3	4.1	4.3	4.1	4.1	4.2	4.2	4.2	4.2	4.3	4.1	4.4	4.1	4.20	4.3
201～250	4.0	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.4	4.4	4.4	4.4	4.3	4.4	4.4	4.33	4.2
251～300	4.1	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.3	4.4	4.3	4.2	4.4	4.3	4.29	4.1
301以上	4.0	4.2	4.5	4.3	4.3	4.4	4.3	4.3	4.4	4.4	4.1	4.4	4.4	4.31	4.3
平均	4.11	4.20	4.36	4.21	4.23	4.31	4.24	4.23	4.30	4.16	4.16	4.39	4.23		

5.2 クラスサイズ別評価の特徴

1. 少人数クラス (1～50 人)

平均値は 4.35 (前年度 4.48) と、前年より下がっているとはいえ、引き続き全規模帯で最も高い。学生と教員の距離が近く、質問・発言の機会が確保されやすいこと、個別対応のしやすさなどが高評価の背景と考えられる。

2. 中規模クラス (51～100 人)

両年度ともクラス規模帯の中で最も評価が低い (2024 年度 3.84 → 2025 年度 4.11)。対話のしやすさは少人数クラスに劣り、大規模クラスほど教材や進行が標準化されていないため、授業設計・参加機会の確保に課題が生じやすいクラス規模といえる。

3. 中～大規模クラス (101～200 人)

評価は安定しており、両年度ともに平均値は 4.1～4.4 の範囲を維持している。マイク・スクリーン等の設備を前提とした講義形式が多く、教材提示や授業進行が標準化されていることが安定した評価につながっていると考えられる。

4. 大規模クラス (201 人以上)

201～250 人、251～300 人、301 人以上のいずれも、2024 年度より 2025 年度にかけて評価が上昇し、相対的に高い水準を示している。教材の視覚化、音声設備の向上、ICT 活用など、大規模授業を前提とした環境整備が高評価に寄与していると推測される。

5.3 総括および授業改善に向けた示唆

クラスサイズ別の分析から、授業改善に向けた次の点が指摘できる。

1. 少人数クラスは一貫して高評価であり、対話型・参加型の教育の効果が明確にみられる。少人数教育の利点を生かし、初年次科目や演習科目では対話型・参加型の授業を継続・強化する。
2. 中規模クラス（51～100人）は最も評価が低く、改善の優先度が高いクラスとして、学習参加や質問機会を確保する授業設計、教材提示の標準化を重点的に進める
3. 101～200人規模は安定した評価を示しており、講義形式への学生の適応が進んでいる。大規模クラスで蓄積されている成功事例（視覚的資料、スライド設計、音声・映像環境、ICT活用）を他の規模帯で共有し、教育全体の質向上につなげる
4. 大規模クラス（201人以上）は教材整備・ICT活用が進み、高評価が維持・向上している。

第6章 設問11（授業環境・統制）と関連する設問（授業理解・教材提示）との相関分析

本章では、昨年度（2024年度）前期の分析枠組を継続し、授業満足度に影響を与える要因を把握する目的から、授業統制を示す指標である設問11「授業の妨げに対する教員の対応」と、授業理解および教材提示に関連する設問（設問4＝授業内容のわかりやすさ、設問8＝教科書・配布資料の活用、設問9＝視認性、設問10＝音声の聞き取りやすさ）との関係をクロス集計結果に基づいて分析する。

こうした相関分析を行う背景には、第一章で指摘したとおり、本年度は学部全体で留学生比率の上昇により多文化・多言語環境への急速な移行が進みつつある。このような学習環境の変化の中で授業統制や教室運営が授業理解や満足度にどのように影響しているかを検証する意義は一層高まっているといえる。本章では、この視点を踏まえ、授業統制に関する設問11を軸に、上記のとおり、授業理解および教材提示に関連する設問との相関を分析する。

表6 全学および経済学部：クロス集計結果

（回答選択肢：0：回答なし、5：強くそう思う、4：そう思う、3：どちらともいえない、2：そう思わない、1：全くそう思わない）

		設問4(わかりやすさ)						
		0	5	4	3	2	1	
全体	設問11	0	10	10	8	4	2	1
		5	6	4325	816	165	34	22
		4	3	623	3041	329	68	7
		3	2	155	415	811	8	30
		2		25	67	35	47	14
		1	1	23	27	15	13	57

		設問8(資料活用)						
		0	5	4	3	2	1	
全体	設問11	0	17	2	10	4	2	
		5	281	4350	568	128	23	18
		4	130	660	2944	276	53	8
		3	46	191	395	814	40	14
		2	3	36	62	39	41	7
		1	5	23	23	16	9	60

		設問9(視認性)						
		0	5	4	3	2	1	
全体	設問11	0	14	6	8	4	3	
		5	39	4656	517	112	24	20
		4	21	728	2992	250	67	13
		3	8	167	414	811	59	41
		2	1	28	62	41	46	10
		1		19	20	13	12	72

		設問10(音声)						
		0	5	4	3	2	1	
全体	設問11	0	15	6	6	6	2	
		5	17	4846	405	59	30	11
		4	8	885	2929	198	40	11
		3	3	218	389	803	69	18
		2	1	33	67	33	42	12
		1	1	28	18	10	12	67

		設問 4 (わかりやすさ)						
		0	5	4	3	2	1	
経済学部	設問 11	0	3			1	1	
		5	1	534	118	22	6	2
		4	1	98	555	56	7	2
		3	1	27	84	156	22	6
		2		5	17	3	9	1
		1		4	4	1	3	11

		設問 8 (資料活用)						
		0	5	4	3	2	1	
経済学部	設問 11	0	3		2			2
		5	3	572	84	20	2	2
		4	4	97	548	62	6	1
		3	3	25	93	165	9	
		2		8	14	6	7	12
		1		3	6	1	1	

		設問 9 (視認性)						
		0	5	4	3	2	1	
経済学部	設問 11	0	3			2		
		5		602	65	14	2	
		4		142	543	27	7	
		3	1	41	90	147	12	5
		2		6	15	8	5	1
		1		2	2	4	2	13

		設問 10 (音声)						
		0	5	4	3	2	1	
経済学部	設問 11	0	3			2		
		5	4	614	56	6	2	1
		4		166	517	24	10	2
		3		44	93	142	12	5
		2		8	13	6	6	2
		1		5	5		1	12

6.1 クロス集計にもとづく分析 (全学・経済学部)

上記のクロス集計表 (設問 11 × 設問 4・8・9・10) から、以下のとおり、2024 年度と同様、2025 年度の評価構造の特徴を読み取ることができる。

全学・経済学部とも、設問 11 (授業の妨げへの対応) の評価が高い学生は、設問 4 (わかりやすさ)、設問 8 (資料活用)、設問 9 (視認性)、設問 10 (音声) のいずれについても肯定的な評価を示す割合が非常に高い。授業統制が適切であると学生が感じる授業は、授業環境全般が良好であると受け止められやすいことがわかる。

設問 11 を低く評価した学生の回答をみると、全学では他設問の評価が分散し、授業妨害への不満があっても教材提示や視認性を高く評価する学生が一定数存在し、一方、経済学部では、設問 11 が低い学生は設問 4・8・9・10 についても一貫して低い評価を行う傾向が強く、授業統制の不足が授業全体の評価低下につながりやすい可能性を示している。

設問 11 を高く評価した学生の中にも、設問 4 (わかりやすさ) を相対的に低く評価する学生が一定数存在する点は、前年度と同様である。特に 2025 年度は留学生比率の上昇が顕著であり、授業理解に直接影響を及ぼす要因が設問 4 の評価に反映されている可能性が高い。

以上の考察から、設問 11 は授業環境評価と密接に関連し、学生満足度を左右する基盤的指標である一方、設問 4 は授業理解支援や教材の平易化といった独立した改善領域を示す指標として位置付けられることから、授業改善にあたっては、授業統制と授業理解支援の両面からアプローチする必要がある。

第 7 章 専門共通基礎科目の比較分析

本章では、初年次必修科目である専門共通基礎Ⅰ「市民生活と経済」および専門共通基礎Ⅱ「戦後日本経済の動き」「地域経済と産業」について、2025 年度前期授業評価アンケートの結果を、経済・経営・法の学部別クラスおよび学生属性別に比較する。専門共通基礎Ⅰ・Ⅱに属する科目はいずれも入学後の初年次段階で大きな役割を果たす科目群であることから、授業理解や学習意欲の形成に直結する設問 4「わかりやすさ」、設問 5「新しいものの見方」、授業環境を問う設問 11「授業の妨げ」を取り上げ、2024 年度報告で指摘された課題と比較しつつ、分析する。

表7 2025年度前期・経済学部専門共通基礎Ⅰ・Ⅱ科目における設問4・設問5・設問11の平均値のクラス・学生属性別比較

科目名	対象	有効数	設問04 わかりやすさ	設問05 新しいものの見方	設問11 授業の妨げ
市民生活と経済(経済学部1年次対象)(金2)	全学生	92	4.04	4.07	3.88
	留学生のみ	35	3.97	4.00	3.74
	留学生を除く	57	4.09	4.11	3.96
	スポーツ学生のみ				
	スポーツ学生を除く				
市民生活と経済(経営学部1年次対象)(金2)	全学生	61	4.11	4.13	4.16
	留学生のみ	14	4.29	4.36	4.07
	留学生を除く	47	4.06	4.06	4.19
	スポーツ学生のみ	7	4.71	4.57	4.71
	スポーツ学生を除く	54	4.04	4.07	4.09
市民生活と経済(法学部1年次対象)(金2)	全学生	57	3.93	4.11	4.02
	留学生のみ	18	4.11	4.28	3.78
	留学生を除く	39	3.85	4.03	4.13
	スポーツ学生のみ	9	3.67	3.78	3.78
	スポーツ学生を除く	48	3.98	4.17	4.06
戦後日本経済の動き①(経済学部2年次対象)(水3)	全学生	62	4.08	4.38	4.08
	留学生のみ	21	4.35	4.65	4.50
	留学生を除く	41	3.95	4.24	3.88
	スポーツ学生のみ				
	スポーツ学生を除く				
戦後日本経済の動き②(3学部2年次対象)(金1)	全学生	109	4.28	4.27	4.24
	留学生のみ	28	4.71	4.64	4.75
	留学生を除く	81	4.12	4.14	4.06
	スポーツ学生のみ	18	4.33	4.22	4.17
	スポーツ学生を除く	91	4.26	4.27	4.25
地域経済と産業①(経済学部2年次対象)(木2)	全学生	90	4.19	4.29	4.40
	留学生のみ	31	4.10	4.32	4.35
	留学生を除く	71	4.10	4.11	4.13
	スポーツ学生のみ				
	スポーツ学生を除く				
地域経済と産業②(3学部2年次対象)(木2)	全学生	72	4.07	4.19	4.24
	留学生のみ	23	4.48	4.43	4.30
	留学生を除く	49	3.88	4.08	4.20
	スポーツ学生のみ	8	3.88	3.88	4.50
	スポーツ学生を除く	64	4.09	4.23	4.20

7.1 専門共通基礎Ⅰ「市民生活と経済」

専門共通基礎Ⅰ「市民生活と経済」は、経済学部・経営学部・法学部の3学部が参加する横断的科目であり、2025年度の授業評価では、設問4(わかりやすさ)、設問5(新しいものの見方)、設問11(授業妨害への対応)の3項目のいずれも概ね4.0前後を維持した。学部別にみると、経営学部クラスが最

も高く、法学部クラスは相対的に低いという構図が前年に引き続いて確認された。

留学生の評価については、2024 年度報告で指摘された経済学部留学生の「わかりやすさ」（設問 4）と「授業妨害への対応」（設問 11）の評価が非留学生より低いという点は 2025 年度も継続した。

一方、経営学部クラスでは 2024 年度の課題が改善し、留学生の評価が非留学生を上回る結果となった。留学生については、設問 4・設問 5 の評価は非留学生を上回った。スポーツ学生についても 3 項目とも非常に高い値（最大 4.71）を示し、高評価が継続している。

法学部クラスについては、3 項目とも他学部よりやや低く、2024 年度からの課題が継続している。とくに属性別では、留学生は「新しいものの見方」（設問 5）は比較的高く評価している一方、「授業妨害への対応」（設問 11）は非留学生より評価は低く、また、スポーツ学生も他学部より低い評価となった。留学生・スポーツ学生とも評価が伸びにくく、授業設計の改善余地が大きいといえる。

7.2 専門共通基礎Ⅱ「戦後日本経済の動き」「地域経済と産業」の分析

2025 年度の専門共通基礎Ⅱの 2 科目 4 クラスでは、設問 4・設問 5・設問 11 は、いずれも 4.1~4.4 の高水準を示し、安定的に高い評価を維持している。特に「戦後日本経済の動き②」クラスは 3 項目すべてで最も高い評価を示している。2024 年度報告でも、経済学部の学生の評価が他学部より 0.1~0.2 ポイント高く、専門共通基礎Ⅰと比べて設問 4「わかりやすさ」の評価が高いことが指摘されている。2025 年度前期もこの傾向は継続しており、専門共通基礎Ⅱは初年次教育の中でも特に理解しやすい科目群として位置づけられる。留学生の評価も高く、いずれのクラスでも非留学生を上回っている。設問 5「新しいものの見方」や設問 11「授業の妨げに対する教員の対応」では、留学生の評価が 4.6~4.7 に達している。スポーツ学生の評価も概ね高水準で学生の受講満足度が高い科目群といえる。

7.3 専門共通基礎Ⅰ・Ⅱの比較

2025 年度は、2024 年度の分析と比較して専門共通基礎ⅠとⅡの特性の違いがより明確になった。専門共通基礎Ⅰでは、2024 年度前期に指摘された「留学生の評価の相対的低さ」が 2025 年度前期も継続した。留学生の評価では、設問 11 と設問 4 の連動が弱く、「授業統制」が一定水準にあっても「授業のわかりやすさ」の評価が伸びにくいという「内容理解」固有の改善の必要性が指摘される。

一方、専門共通基礎Ⅱでは、留学生評価が高く、設問 11 との関連では「授業統制」（設問 11）と「内容理解」（設問 4・5）が連動して高評価を示している。

7.4 教育的示唆と総括

以上の分析から、専門共通基礎ⅠとⅡは、いずれも初年次教育において重要な役割を担う科目であるものの、その教育的機能と課題は必ずしも同一ではないことが明らかになった。

専門共通基礎Ⅰについては、初年次の多様な学習者に対応した授業設計の見直しが求められる。特に留学生について、授業進度、課題の量と難易度、授業スタイル、日本語での説明方法、用語の前提知識などを総合的に点検し、「授業のわかりやすさ」と授業統制などの授業環境の双方を改善するための工夫が必要である。法学部クラスは特に改善余地が高いと考えられる。

これに対し、専門共通基礎Ⅱは、2024年度以降、一貫して高い評価を維持しており、1年次における日本語教育の成果を踏まえた留学生を含む多様な学生にとって理解しやすく、一定の成果をあげている科目群といえる。

以上、2025年度前期のアンケート結果より、専門共通基礎Ⅱが多様な学生に対して高い教育効果を発揮している一方で、専門共通基礎Ⅰについては、日本語能力の問題に加えて留学生の授業理解・授業環境評価の面で課題が残されているといえる。今後の授業改善においては、専門共通基礎Ⅱで蓄積された成功事例を参照しつつ、専門共通基礎Ⅰにおける初年次専門基礎教育の質向上に向けた取り組みを重点的に進めていくことが重要である。

第8章 総括

8.1 2025年度前期授業評価結果の位置づけ

2024年度前期の授業評価では、経済学部のはほぼすべての設問で平均値上昇が確認され、授業改善の取組が着実に成果を上げていることが確認された。同時に、欠席の増加や留学生による授業評価の相対的低さが主要課題として指摘され、初年次教育の再設計や留学生比率の上昇を前提とした授業運営の見直しの必要性が前年度の重要な結論として整理された。

こうした課題に対する改善努力は、前年度に続き多くの設問項目で平均値が上昇していることから授業改善への継続的取り組みにより一定の成果を上げていると評価できる。授業内容の理解度、教科書・配布資料の活用状況、板書やスクリーン・モニターの視認性、教員の声の聞き取りやすさなど、授業運営の基盤となる項目において改善傾向が確認され、学部全体として授業の質が一段階向上したことがうかがえる。

ただし、第2章で述べたとおり、回答率は概ね50%前後にとどまり、履修放棄者や欠席者の評価が反映されないという制約がある。また、全学平均値との比較では、留学生を多く受け入れている社会科学系3学部と人間生活科学部との学生構成の差異が授業評価に影響する可能性に留意する必要がある。

8.2 学生構成の変化と評価への影響

2025年度は、経済学部における学生構成が大きく変化した年度である。既述のとおり、留学生数は、初年次層で急速な国際化が進行している。こうした変化は、授業評価にも直接的な影響を与えている。留学生は、国内学生（日本人学生および日本に育った外国籍学生）と日本語運用能力や学習背景が国内学生とは大きく異なるため、「授業のわかりやすさ」（設問4）、「教員の声の聞き取りやすさ」（設問10）など言語負荷の高い項目では評価が低下しやすい。一方で、非言語的な教材提示や授業統制に関する設問では一定の評価を示すなど、属性によって評価傾向が異なる可能性が高い。このような学生構成の変化と回答率の低下が同時に進行した2025年度は、授業評価の値が複合的な要因で左右されていると考えられ、属性ごとの回答行動をより精査し、検証する必要性が高まっているといえる。

8.3 授業統制と「わかりやすさ」の二重構造

設問11「授業の妨げへの対応」と、授業理解・環境に関わる設問（4・8・9・10）との関係を分析した結果、明確なルール提示や一貫した授業統制が良好に行われている授業ほど、授業内容の理解度や視認性、音声といった各項目でも高い評価が得られる傾向が、2025年度も一貫して確認され、多文化・多言語環

境において授業満足度に強く影響することが裏付けられた。

一方で、「授業のわかりやすさ」は授業統制とは独立した改善領域であることも再確認された。授業妨害への対応が適切であり学習環境が整っている授業であっても、内容理解に関する評価が伸びにくい層が少数ながら一定数存在し、とくに留学生にこの傾向があることが推測される。初年次における集中的な日本語教育や基礎学習支援が2年次以降の専門共通基礎Ⅱにおける評価向上に寄与している可能性が高く、初年次からの日本語教育と専門教育との連携を視野に入れた検討が今後の課題となる。

8.4 2025年度結果の総括

2025年度前期は、授業改善の取り組みが継続的に成果を生みつつある一方、学生構成の急速な変化に伴う新たな課題が顕在化した年度であった。成果としては、授業運営の基礎項目（資料、視認性、音声など）が改善し、多くの設問で前年より平均値が上昇し、また、初年次教育を中心に授業改善の効果が蓄積していることを挙げるができる。課題（構造的課題）としては、留学生比率の上昇に伴い「授業のわかりやすさ」への評価差が拡大し、授業統制が整っていても内容理解が向上しにくい層に対する授業設計・学習支援の必要性が高まっているといえる。今後は、授業改善・学習支援・教室運営・カリキュラム構成を総合的に位置づけ、学部の国際化が教育の質向上につながるよう、計画的に取り組むを進める必要がある。

8.5 今後の分析に向けた課題と展望

回答率が50%前後にとどまるため、現状の授業評価は学生全体の意見を完全に反映しているとは言い難く、評価の代表性に一定の限界があるという状況を踏まえ、今後の分析をより精緻化するために、学生を「学年」および「属性」（留学生・非留学生、スポーツ学生・一般学生など）の組み合わせで細分化し、層ごとに回答傾向を比較する層別化分析の導入に取り組む必要がある。留学生の評価差が特定の学年に偏っていないか、初年次の特有の課題はないか、どの学生層で「わかりやすさ」や「妨げ」の評価が低下しているかなど、課題の所在をより正確に把握することは、学生構成が学年によって大きく異なる現状において授業改善の優先順位を判断するために不可欠な分析視点と考える。2025年度は、授業改善の成果と学生構成の変化が同時に現れた年度であった。今後は、授業評価の精度を高めながら、学習支援・授業設計・教室運営・カリキュラム改善を総合的に進め、学部の国際化を教育の質向上につなげていくことが求められる。

2025 年度 経営学部 授業評価アンケート報告書

1. 実施概要

所属名	対象科目 履修者数 (D)	回収科目 履修者数 (E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
【全体】	18,040	18,026	11,298	62.68
経営学部	4,521	4,521	2,622	58.00

経営学部における授業評価アンケート対象科目である 51 科目すべての科目で実施がなされ、回収率は 100%であった。経営学部教員担当科目の回答率は 58.00%であり、全体平均 62.68%に比べ、4.68%低かった。人間生活科学部の高い数値（教育保育学科：85.43%、管理栄養学科：83.71%）と比較すると低いものの、3 学部（経済学部：50.63%、法学部：55.71%）の中では一番高い数値であった。2024 年度前期における経営学部教員担当科目の回答率 58.57%（全体平均 62.51%）と比較すると 0.57%低い結果であった。

2. 経営学部教員担当科目の平均値

設問	設問項目	2024 年度	2025 年度
1	あなたはこの授業によく出席しましたか	4.1	4.1
2	あなたはこの授業の履修(授業そのもの、予習、復習)に意欲的に取り組んだと思いますか	4.1	4.2
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか 上記の設問 E で「はい」と答えた人のみ回答すること	4.3	4.4
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	4.1	4.2
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	4.1	4.2
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.2	4.3
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	4.1	4.2
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか	4.2	4.3
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか	4.2	4.2
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか	4.2	4.3

11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか	4.1	4.2
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか	4.3	4.4
13	この授業の教え方はよいですか(この項目の結果はエクセレントティーチャーの表彰に用いられます)	4.1	4.2

※ 前年度数値から変動があった項目数値について赤字表記。

上表の集計データは、2024年度前期と2025年度前期における経営学部教員担当科目の各設問項目の平均値をそれぞれ併記したものである。2025年度前期の平均値は、すべての設問において4.1以上であり、設問1を除いてはすべて4.2以上となっている。2024年度前期の数値に比し、上昇した設問は全13項目中11項目(設問2.3.4.5.6.7.8.10.11.12.13)であった。2024年度前期の数値よりも低下した設問はなく、全般的な改善傾向が認められる。学生の出席状況の改善・板書の見やすさ等に今後の課題があると考えられる。

3. 経営学部学生視点からのデータ分析

設問	全学部生	留学生のみ	留学生除く	スポーツ学生のみ	スポーツ学生除く
1	4.0	4.5	3.9	4.0	4.0
2	4.2	4.5	4.1	4.3	4.2
3	4.3	4.5	4.3	4.4	4.3
4	4.2	4.4	4.2	4.3	4.2
5	4.2	4.4	4.2	4.3	4.2
6	4.3	4.5	4.3	4.4	4.3
7	4.3	4.4	4.2	4.3	4.2
8	4.3	4.4	4.2	4.3	4.3
9	4.2	4.4	4.2	4.3	4.2
10	4.3	4.5	4.3	4.4	4.3
11	4.2	4.4	4.2	4.3	4.2
12	4.4	4.5	4.4	4.4	4.4
13	4.3	4.5	4.2	4.3	4.2

※ 平均値4.0未満の数値を赤字表記。

留学生のみに関しては、すべての設問において、4.4以上の高い数値を示している。一方、日本

人学生（留学生を除く）は、すべての設問において留学生より低い数値を示しており、なかでも設問1の授業への出席に関しては、2023年度前期及び2024年度前期と同様、4.0未満の低い数値となった。日本人学生の授業への出席を促すことが必要である。

また、スポーツ学生のみに関しては、すべての設問において4.0を超える結果となった。設問1についても、2024年度前期の数値3.8に比し、改善が認められた。

4. 経営学部教員担当科目の履修者数別結果

設問	1～50人	51～100人	101～150人	151～200人	201～250人	251～300人
1	4.1	4.1	3.9	4.1	4.1	4.2
2	4.4	4.2	4.2	4.2	3.9	3.8
3	4.5	4.4	4.4	4.3	4.2	4.1
4	4.5	4.2	4.3	4.2	4.0	3.5
5	4.4	4.2	4.3	4.2	3.9	3.7
6	4.6	4.4	4.4	4.3	4.1	4.0
7	4.5	4.2	4.3	4.2	4.1	3.6
8	4.5	4.3	4.4	4.2	4.2	4.2
9	4.5	4.3	4.3	4.3	3.8	3.3
10	4.6	4.3	4.3	4.3	4.2	4.1
11	4.5	4.3	4.3	4.2	4.0	3.8
12	4.6	4.4	4.4	4.3	4.4	4.2
13	4.6	4.3	4.3	4.1	4.1	3.7

※ 301人以上は該当クラスなし。

※ 平均値4.0未満の数値を赤字表記。

上表は、経営学部教員担当科目の履修者数別の結果である。該当する授業数は、1～50人が20授業、51～100人が11授業、101～150人が10授業、151～200人が6授業、201～250人が3授業、251～300人が1授業であった。平均して数値が一番高いのは1～50人規模の授業である。次に高いのは51～100人規模の授業であり、全般的に履修者数が多くなるにしたがって数値が低くなる傾向がみられる。251～300人規模の授業については、全13項目中7項目が4.0未満という結果であった。この全体的な傾向に対し、設問1の履修者数101～151人の数値3.9は、やや目立つ低い数値であるが、2024年度前期の同数値は3.8であり、若干の改善が認められる。

5. クロス集計について

下表は、設問 11「教室管理」と設問 4「わかりやすさ」、設問 8「教科書・配布資料の活用」、設問 9「板書やスクリーン・モニターなどの見やすさ」、設問 10「教員の声の聞き取りやすさ」の 4 つの設問のクロス集計の結果である。設問 11「教室管理」の数値が高ければ、設問 4「わかりやすさ」、設問 8「教科書・配布資料の活用」、設問 9「板書やスクリーン・モニターなどの見やすさ」、設問 10「教員の声の聞き取りやすさ」の数値も高い傾向がみられた。

* 「設問 11：教室管理」と「設問 4：わかりやすさ」

		設問 4					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし	5	1	2	1		
	5	2	933	191	35	7	10
	4	1	154	729	79	23	1
	3		44	106	178	26	9
	2		8	16	13	13	5
	1		4	7	3	5	11

* 「設問 11：教室管理」と「設問 8：教科書・配布資料の活用」

		設問 8					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし	4	1	2	1		1
	5	45	976	120	23	6	8
	4	43	188	679	65	10	2
	3	20	51	91	187	10	4
	2	2	14	16	11	10	2
	1	3	7	5	3	2	10

* 「設問 11：教室管理」と「設問 9：板書やスクリーン・モニターなどの見やすさ」

		設問 9					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし	4	1	3			1
	5	4	1002	130	27	6	9

	4	2	172	713	64	29	7
	3	1	37	98	188	21	18
	2		8	18	9	14	6
	1		7	4		4	15

* 「設問 11：教室管理」と「設問 10：教員の声の聞き取りやすさ」

		設問 10					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし	5	1	2	1		
	5	4	1054	99	13	5	3
	4	2	206	714	48	11	6
	3	1	52	94	182	28	6
	2		10	19	12	11	3
	1	1	9	4	1	4	11

6. 「わかりやすさ」、「新しいものの見方」、「教室管理」の分析

	科目名	わかりやすさ	ものの見方	教室管理
1	地域調査(火3.火4)	4.80	4.80 ②	4.80 ②
2	ビジネス情報処理 I(木3)	4.79	4.84 ①	4.84 ①
3	(留)アカデミック日本語レベル5(木4)	4.75	4.69 ③	4.75 ③
4	スキルアップ英語 I(G)(金4)	4.72	4.67 ④	4.53
5	メディア表現(木1)	4.72	4.50	4.33
6	国際経済・ビジネス事情(金3)	4.70	4.67 ④	4.67 ⑤
7	英語ライティング(木3)	4.68	4.55 ⑩	4.67 ⑤
8	プログラム入門(月1)	4.64	4.62 ⑥	4.41
9	(留)日本事情 II(木1)	4.62	4.46	4.69 ④
10	環境共生の探究 I(金2)	4.61	4.51	4.57 ⑩
11	トピック対策英語 I(1)(木2)	4.57	4.50	4.57 ⑩
12	プレゼンテーション(木2)	4.55	4.61 ⑦	4.55
13	市民生活とキャリア形成(再3)(月1)	4.53	4.33	4.40
14	人的資源管理論(水2)	4.53	4.56 ⑧	4.58 ⑦
15	全学ゼミナール(総合英語)(月3)	4.52	4.56 ⑨	4.52

16	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル1(水4.金4)	4.50	4.00	4.11
17	公務員・就職試験対策I(SPI含む)(火2)	4.46	4.32	4.41
18	情報処理I(金3)	4.42	4.53	4.58 ⑦
19	データ解析(水3)	4.42	4.42	4.38
20	情報システムの世界(月1)	4.41	4.45	4.23
21	キャリア支援講座I(済)(水3)	4.38	4.43	4.27
22	キャリア支援講座I(営)(月2)	4.37	4.41	4.40
23	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル1(水3.金3)	4.37	3.68	4.11
24	会計と資金の経営学①(火2)	4.37	4.29	4.32
25	日本史(月3)	4.34	4.36	4.38
26	公務員・就職試験基礎力養成II(SPI含む)(火3)	4.33	4.16	4.37
27	スキルアップ英語I(A)(金3)	4.31	4.20	4.29
28	会計と資金の経営学②(木1)	4.30	4.24	4.26
29	経営統計論(火1)	4.30	4.21	4.42
30	情報リテラシー(営1)(火1)	4.29	4.26	4.00
31	経営情報論(月1)	4.29	4.22	4.19
32	情報リテラシー(再2)(火3)	4.29	4.14	4.43
33	簿記II(製造業会計)(金2)	4.27	4.27	4.25
34	情報リテラシー(済2)(木2)	4.27	4.03	4.17
35	財務会計(水1)	4.23	4.16	4.23
36	犬山学入門(木2)	4.22	4.27	4.35
37	アジアの中の思想(木3)	4.22	4.32	4.32
38	簿記I(株式会社会計)(金1)	4.16	(除外項目)	4.38
39	情報リテラシー(済3)(木2)	4.16	4.06	4.16
40	販売管理論(木3)	4.14	4.17	4.28
41	AI・データサイエンスII(金1)	4.11	4.47	4.58 ⑦
42	日本の文化と社会(金4)	4.09	4.09	4.12
43	商品と流通の経営学①(火4)	4.08	4.05	4.14
44	市民生活とビジネス(営)(月1)	4.06	4.14	4.06
45	市民生活とビジネス(済)(月1)	4.03	4.08	4.11

上表では、設問4「わかりやすさ」の評価値が4.0以上の科目を高い順に並べ、中央列に設問5「新しいものの見方」、右列に設問11「教室管理」の評価値が高い上位10科目について丸囲み数字でその順番を示した。設問4「わかりやすさ」の評価値上位10科目のうち、設問5「新しいものの見方」に対する評価値上位10位以内の科目は7科目であり、「わかりやすさ」の評価が高い

科目では「新しいものの見方」に対する評価も高くなる傾向がある。また、設問4「わかりやすさ」の評価値上位10科目のうち、設問11「教室管理」に対する評価値上位10位以内の科目も7科目であり、「わかりやすさ」の評価が高い科目では「教室管理」に対する評価も高くなる傾向がある。さらに、経営学部教員が担当する科目全体における設問4「わかりやすさ」に対する評価値と設問5「新しいものの見方」に対する評価値の相関係数は約0.84であり、高い相関が認められる。また、設問4「わかりやすさ」に対する評価値と設問11「教室管理」に対する評価値の相関係数は約0.82であり、こちらも高い相関が認められる。なお、設問4「わかりやすさ」の評価値が4.0以上の科目は51科目中45科目（88%）であった。この割合は2024年度前期（50科目中41科目：82%）に比べ約6%上昇した。

* 設問5「新しいものの見方」結果

	科目名	評価
1	ビジネス情報処理 I(木 3)	4.84
2	地域調査(火 3. 火 4)	4.80
3	(留)アカデミック日本語レベル5(木 4)	4.69
4	スキルアップ英語 I(G)(金 4)	4.67
5	国際経済・ビジネス事情(金 3)	4.67
6	プログラム入門(月 1)	4.62
7	プレゼンテーション(木 2)	4.61
8	人的資源管理論(水 2)	4.56
9	全学ゼミナール(総合英語)(月 3)	4.56
10	英語ライティング(木 3)	4.55
11	情報処理 I(金 3)	4.53
12	環境共生の探究 I(金 2)	4.51
13	トピック対策英語 I(1)(木 2)	4.50
14	メディア表現(木 1)	4.50
15	AI・データサイエンス II(金 1)	4.47
16	(留)日本事情 II(木 1)	4.46
17	情報システムの世界(月 1)	4.45
18	キャリア支援講座 I(済)(水 3)	4.43
19	データ解析(水 3)	4.42
20	キャリア支援講座 I(営)(月 2)	4.41
21	日本史(月 3)	4.36
22	市民生活とキャリア形成(再 3)(月 1)	4.33
23	公務員・就職試験対策 I(SPI 含む)(火 2)	4.32

24	アジアの中の思想(木 3)	4.32
25	会計と資金の経営学①(火 2)	4.29
26	簿記 II(製造業会計)(金 2)	4.27
27	犬山学入門(木 2)	4.27
28	情報リテラシー(営 1)(火 1)	4.26
29	会計と資金の経営学②(木 1)	4.24
30	経営情報論(月 1)	4.22
31	経営統計論(火 1)	4.21
32	スキルアップ英語 I(A)(金 3)	4.20
33	販売管理論(木 3)	4.17
34	公務員・就職試験基礎力養成 II(SPI 含む)(火 3)	4.16
35	財務会計(水 1)	4.16
36	情報リテラシー(再 2)(火 3)	4.14
37	市民生活とビジネス(営)(月 1)	4.14
38	商品と流通の経営学②(月 2)	4.14
39	市民生活とビジネス(法)(月 1)	4.11
40	日本の文化と社会(金 4)	4.09
41	市民生活とビジネス(済)(月 1)	4.08
42	情報リテラシー(済 3)(木 2)	4.06
43	商品と流通の経営学①(火 4)	4.05
44	情報リテラシー(済 2)(木 2)	4.03
45	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル 1(水 4. 金 4)	4.00

設問 5「新しいものの見方」において評価値が 4.0 以上の科目は 50 科目中 45 科目 (90%) であった。これは 2024 年度前期 (50 科目中 42 科目 : 84%) に比べ約 6%上昇した。

* 設問 11「教室管理」の結果

	科目名	平均
1	ビジネス情報処理 I(木 3)	4.84
2	地域調査(火 3. 火 4)	4.80
3	(留)アカデミック日本語レベル 5(木 4)	4.75
4	(留)日本事情 II(木 1)	4.69
5	英語ライティング(木 3)	4.67
6	国際経済・ビジネス事情(金 3)	4.67
7	人的資源管理論(水 2)	4.58

8	情報処理 I(金 3)	4.58
9	A I・データサイエンス II(金 1)	4.58
10	トピック対策英語 I(1)(木 2)	4.57
11	環境共生の探究 I(金 2)	4.57
12	プレゼンテーション(木 2)	4.55
13	スキルアップ英語 I(G)(金 4)	4.53
14	全学ゼミナール(総合英語)(月 3)	4.52
15	情報リテラシー(再 2)(火 3)	4.43
16	経営統計論(火 1)	4.42
17	プログラム入門(月 1)	4.41
18	公務員・就職試験対策 I(SPI 含む)(火 2)	4.41
19	市民生活とキャリア形成(再 3)(月 1)	4.40
20	キャリア支援講座 I(営)(月 2)	4.40
21	データ解析(水 3)	4.38
22	日本史(月 3)	4.38
23	簿記 I(株式会社会計)(金 1)	4.38
24	公務員・就職試験基礎力養成 II(SPI 含む)(火 3)	4.37
25	商品と流通の経営学②(月 2)	4.35
26	犬山学入門(木 2)	4.35
27	メディア表現(木 1)	4.33
28	会計と資金の経営学①(火 2)	4.32
29	アジアの中の思想(木 3)	4.32
30	スキルアップ英語 I(A)(金 3)	4.29
31	販売管理論(木 3)	4.28
32	キャリア支援講座 I(済)(水 3)	4.27
33	会計と資金の経営学②(木 1)	4.26
34	簿記 II(製造業会計)(金 2)	4.25
35	財務会計(水 1)	4.23
36	情報システムの世界(月 1)	4.23
37	経営情報論(月 1)	4.19
38	情報リテラシー(済 2)(木 2)	4.17
39	情報リテラシー(済 3)(木 2)	4.16
40	商品と流通の経営学①(火 4)	4.14
41	日本の文化と社会(金 4)	4.12
42	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル 1(水 4. 金 4)	4.11

43	市民生活とビジネス(済)(月1)	4.11
44	Q1(留)日本語コミュニケーションレベル1(水3.金3)	4.11
45	市民生活とビジネス(営)(月1)	4.06
46	情報リテラシー(営1)(火1)	4.00

設問11「教室管理」において評価値が4.0以上の科目は51科目中46科目(90%)であった。これは2024年度前期(50科目中42科目:84%)に比べ約6%上昇した。

「わかりやすさ」、「新しいものの見方」、「教室管理」について、いずれも2024年度前期よりも高い評価であった。これらの結果について、学生および教員双方の努力によってこのような結果を得ることができていると考えられる。今後のアンケート結果を注視していきたい。

2025 年度 法学部授業評価アンケート結果報告

1 実施概要

所属名	対象科目履修者数(D)	回収科目履修者数(E)	回答者数(F)	回答率(F÷E)
法学部	2,845	2,845	1,585	55.71
【全体】	18,040	18,026	11,298	62.68

法学部の専任教員担当科目のうち 19 科目が今回のアンケート対象であり、全科目のアンケートが回収された。該当科目履修者数に対する回答率は 55.71% 去年より 3.59 ポイント上昇した。しかし、全体と比べて低い数値になっているので、今後も回答率のより一層の向上を目指して、呼びかけを行いたい。

2 法学部所属教員の結果（他学部科目及び他学部履修生を含む）

設問	内容	平均
1	あなたはこの授業によく出席しましたか	3.95
2	あなたは予習・復習を含めこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	4.16
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか(設問 E で「はい」と答えた人のみ回答)	4.36
4	授業内容は、わかりやすかったかと思いませんか	4.18
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いませんか	4.22
6	教員の教え方には、熱意があったと思いませんか	4.32
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いませんか	4.23
8	教科書、配布資料が活用されていたと思いませんか	4.18
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いませんか	4.20
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いませんか	4.30
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いませんか	4.21
12	教員は、授業時間を守っていたと思いませんか	4.35
13	この授業のやり方で他の授業も勉強したいと思いませんか この授業の教え方はいいですか	4.21

昨年度と比較すると、概ね同水準を維持しており、全体として安定した授業運営がなされていることが確認できる。特に、設問 6 および 7 においては高水準を保っており、この点は評価できる。一方で、設問 4 および 8 など、説明や資料提示に関する項目では若干の低下が見られるため、授業内容をより視覚的かつ構造的に整理する工夫（スライド構成の改善や具体例の明確化）が今後の改善点として挙げられる。

3 法学部生学年別結果（全学生）

設問	内容	全学年平均	1 年	2 年	3 年	4 年
1	あなたは、この授業によく出席しましたか	4.1	4.3	4.1	3.9	3.7
2	あなたは予習を含めこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	4.2	4.1	4.3	4.1	4.2
3	この授業は、シラバスにそっておこなわれたと思いますか(設問 E で「はい」と答えた人のみ回答)	4.4	4.4	4.4	4.4	4.5
4	授業内容は、わかりやすかったと思いませんか	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いませんか	4.3	4.1	4.3	4.2	4.2
6	教員の教え方には、熱意があったと思いませんか	4.4	4.3	4.4	4.3	4.3
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いませんか	4.3	4.1	4.4	4.2	4.2
8	教科書、配布資料が活用されていたと思いませんか	4.3	4.3	4.4	4.2	4.3
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いませんか	4.3	4.2	4.4	4.2	4.3
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いませんか	4.4	4.4	4.4	4.3	4.3
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いませんか	4.2	4.1	4.4	4.2	4.2
12	教員は、授業時間を守っていたと思いませんか	4.4	4.5	4.4	4.3	4.4
13	この授業のやり方で他の授業も勉強したいと思いませんか 教え方はいいですか	4.3	4.3	4.4	4.2	4.3
E	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか(結果は%単位)	77.9	69.6	85.7	74.0	75.1

5 授業のわかりやすさ（設問4）及び新しいものの見方（設問5）（法学部関係科目及び法学部専任教員が担当する科目）

設問	内容	全学年平均	1年	2年	3年	4年
1	あなたは、この授業によく出席しましたか	4.0	4.1	4.0	3.8	3.8
2	あなたは予習・復習を含めこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	4.2	4.2	4.3	4.1	4.2
3	この授業は、シラバスにそっておこなわれたと思いますか(設問Eで「はい」と答えた人のみ回答)	4.4	4.5	4.4	4.4	4.3
4	授業内容は、わかりやすかったと思いますか	4.2	4.1	4.3	4.2	4.1
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	4.2	4.1	4.3	4.2	4.0
6	教員の教え方には、熱意があったと思いますか	4.3	4.4	4.3	4.3	4.2
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いますか	4.2	4.1	4.3	4.2	4.2
8	教科書、配布資料が活用されていたと思いますか	4.2	4.2	4.3	4.2	4.1
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか	4.3	4.2	4.3	4.2	4.1
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか	4.3	4.3	4.3	4.3	4.2
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか	4.2	4.1	4.3	4.2	4.3
12	教員は、授業時間を守っていたと思いますか	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3
13	この授業のやり方で他の授業も勉強したいと思いますか 教え方はいいですか	4.2	4.2	4.3	4.2	4.2
E	あなたは、この授業のシラバスを読みましたか(結果は%単位)	72.4	53.5	81.4	70.9	66.7

昨年度と比較して、設問1～13の数値に大きな変動は見られず、授業運営の安定性と一貫性が維持されている。ただし、設問Eの数値は前年より2.8ポイント低下しており、その主な要因は1年生におけるシラバス読了率の減少によるものと考えられる。特にスポーツ学生については、前年より6.3ポイントと大きく低下しており、この傾向はより顕著である。したがって、今後は1年生を中心にシラバス理解を促進し、授業内容の見通しや目的意識を高める指導を行うことで、さらなる教育改善が期待される。

4 履修者数別結果

設問	内容	1-50	51-100	101-150	151-200	201-250
1	あなたは、この授業に出席しましたか	4.4	3.9	4.1	4.0	3.8
2	あなたは予習・復習を含めこの授業に意欲的に取り組んだと思いますか	4.0	4.1	4.1	4.2	4.1
3	この授業は、シラバスにそっておこなわれたか(設問Eで「はい」と答えた人のみ回答)	4.1	4.4	4.3	4.4	4.3
4	授業内容は、わかりやすかったと思いますか	3.4	4.2	4.0	4.2	4.1
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	3.6	4.2	3.9	4.3	4.2
6	教員の教え方には、熱意があったと思いますか	3.4	4.3	4.3	4.4	4.2
7	授業の速さや進め方は、適切だったと思いますか	3.6	4.2	4.1	4.3	4.2
8	教科書、配布資料が活用されていたと思いますか	4.0	4.2	4.3	4.1	4.2
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか	3.2	4.2	4.0	4.3	4.2
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか	4.1	4.4	4.2	4.4	4.2
11	一部の学生の私語、携帯電話、遅刻などの授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか	3.6	4.2	4.0	4.2	4.2
12	教員は、授業時間を守っていたと思いますか	3.9	4.4	4.3	4.4	4.3
13	この授業のやり方で他の授業も勉強したいと思いますか 教え方はいいですか	3.4	4.2	4.0	4.3	4.2

履修者数別結果であるが、アンケート対象の授業数について、1～50名規模のものが1、51～100名規模のものが5、101～150名規模のものが1、151～200名規模のものが8、201～250名規模のものが3である。

1～50名規模の授業では、設問1を除き、他の規模の授業と比較して低い数値が示されている。一方で、50名以上の大規模授業においては、設問1（出席状況）の数値が相対的に低い傾向が見られる。したがって、小規模授業における満足度の向上および大規模授業における出席率の改善に向けた工夫を進めることが望ましい。

5 授業のわかりやすさ（設問4）及び新しいものの見方（設問5）（法学部関係科目及び法学部専任教員が担当する科目）

科目名	わかりやすさ	ものの見方
政治の世界(木 4)	4.66	4.72①
知的財産法(金 2)	4.44	4.38④
債権総論(水 2)	4.43	4.50②
労働法(金 4)	4.42	4.47③
市民生活と法(法)(水 2)	4.26	4.36⑤
企業と法②(水 1)	4.19	4.23⑦
租税法(金 3)	4.19	4.29⑥
裁判と法①(水 2)	4.18	4.20⑧
市民生活と法(営)(水 2)	4.16	4.19⑨
情報と法(火 1)	4.15	4.14
行政法総論(水 1)	4.14	4.14
企業と法①(水 1)	4.04	4.18⑩
(日)基礎力養成 I(B)(木 4)	4.02	3.94
民法総則(水 3)	3.98	4.06
市民生活と法(済)(水 2)	3.95	4.03
憲法(火 1)	3.93	4.00
裁判と法②(水 2)	3.90	4.01
刑法総論(金 1)	3.75	4.13
刑法各論(火 2)	3.44	3.56

上の表では、授業のわかりやすさ（設問4）の値が高い順に科目を列挙し、右の列に新しいものの見方（設問5）の値が高い上位10科目について丸囲みの数字でその順番を示した。設問4の値が高い科目と設問5の値の高い科目は概ね対応する関係があるように認められる。

6 授業・教室管理について

科目名	平均
政治の世界(木 4)	4.68
債権総論(水 2)	4.48
知的財産法(金 2)	4.42
刑法総論(金 1)	4.38
租税法(金 3)	4.27
情報と法(火 1)	4.27
裁判と法①(水 2)	4.27
労働法(金 4)	4.26
民法総則(水 3)	4.17
市民生活と法(法)(水 2)	4.16

授業及び教室管理について、高評価順に10科目を示すと、左記の通りである。

			設問 4					
			回答なし	5	4	3	2	1
法学部	設問 11	回答なし	1	3	1	1		1
		5	1	581	116	33	1	3
		4		71	413	46	11	1
		3		12	55	152	13	2
		2		2	9	12	9	5
		1		4	6	7	1	12
			設問 8					
			回答なし	5	4	3	2	1
法学部	設問 11	回答なし	5		1			1
		5	98	523	86	19	4	5
		4	31	69	391	42	9	
		3	7	17	55	150	4	1
		2		1	12	10	10	4
		1		5	5	5	1	14
			設問 9					
			回答なし	5	4	3	2	1
法学部	設問 11	回答なし	3	1	1			2
		5		619	80	28	5	3
		4	1	79	405	46	10	1
		3	1	14	57	150	6	6
		2		1	7	13	13	3
		1		2	8	4	2	14
			設問 10					
			回答なし	5	4	3	2	1
法学部	設問 11	回答なし	3	1	1			2
		5	2	656	59	7	9	2
		4	1	107	392	37	5	
		3	1	30	51	139	12	1
		2		3	16	7	9	2
		1		6	4	4	2	14

クロス集計は、教室管理（設問 11）と設問 4、設問 8、設問 9、設問 10 との間で行われている。本年度においても、一般に教室・授業管理に対する評価が高い場合、これらクロス項目の評価も高い傾向が認められる。

結論

2025年度の法学部授業評価アンケート結果から、授業運営全体は昨年度と比較して概ね同水準を維持しており、出席状況、教員の熱意、授業の進め方など多くの項目で安定した高評価が確認された。特に「教員の教え方の熱意」や「授業運営・教室管理」に関する評価は一貫して高く、教育の質が一定程度確保されていることがうかがえる。一方で、「授業のわかりやすさ」や「配布資料の活用」については一部で評価の低下が見られ、説明構成や視覚的資料の工夫が今後の課題として挙げられる。また、学年別では1年生を中心にシラバス読了率の低下が認められ、特に初年次教育において授業の目的や全体像をより丁寧に示す必要性が示唆された。さらに、履修者数別分析からは、小規模授業では満足度向上、大規模授業では出席率改善に向けた対応が求められており、今後は授業規模や学年特性に応じたきめ細かな授業改善を進めることが重要である。

2025 年度 人間生活科学部教育保育学科授業評価アンケート報告書

1. 実施概要

本学科の授業評価アンケートは 37 科目について行われた。学生の回答率は約 85%であった。大学全体の回答率は約 63%であり、本学科の回答率は高いといえる(表 1)。なお、2024 年度前期は約 81%(全体約 57%)であり、回答率が若干上昇した。

【表 1】

所属	対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数(F)	回答率(F/E)
教保	1,139	1,139	973	85.43
全体	18,040	18,026	11,298	62.68

2. 本学科の教員担当科目の概要

【表 2】

設問	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
全体	4.12	4.23	4.42	4.26	4.26	4.36	4.28	4.31	4.31	4.37	4.27	4.43	4.29
教保	4.35	4.53	4.66	4.49	4.57	4.62	4.53	4.45	4.56	4.60	4.55	4.63	4.52

※設問

- 1 あなたはこの授業によく出席しましたか
- 2 あなたはこの授業の履修(授業そのもの、予習、復習)に意欲的に取り組んだと思いますか
- 3 この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか 上記の設問 E で「はい」と答えた人のみ回答すること
- 4 授業内容はわかりやすかったと思いますか
- 5 この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか
- 6 教員の教え方には熱意があったと思いますか
- 7 授業の速さや進め方は適切だったと思いますか
- 8 教科書・配布資料は活用されていたと思いますか
- 9 板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか
- 10 教員の声は聞き取りやすかったと思いますか
- 11 一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか
- 12 教員は授業時間を守っていたと思いますか
- 13 この授業の教え方はよいですか(この項目の結果はエクセレントティーチャーの表彰に用いられます)

表 2 のとおり、全ての設問について全体平均を上回り、相対的に高いポイントとなっている。この傾向は昨年度と同様である(2024 年度第 18 回人間生活科学部教授会資料参照)。とりわけ、設問 1 (出席)、4 (わかりやすさ) および 8 (資料活用) を除き(表 2 下線部)、全て 4.5 以上であり、高い評価が多数を占めていることがわかる。そのうち、特に、設問 3 (シラバス)、6 (熱意)、10 (声量) および 12 (時間) について(表 2 網掛け部)、授業内容に直接関わるものではないが、適切な授業進行や授業担当教員に対する評価が相対的に高い数値(4.6 以上)を示している。授業内容および内容理解に関する項目について、設問 4 (わかりやすさ) は学科の他項目と比較すると若干低い値を示し、4.49 であるが、設問 5 (新しい知見) は 4.57 を示し、ともに、十分に高いといえる。

3. 「クロス集計」(授業管理) 結果

【表3】

		設問4						設問8						
		目答なし	5	4	3	2	1	目答なし	5	4	3	2	1	
設問11	目答なし		2	1				目答なし	2		1			
	5	1	532	84	10	4	3	5	99	451	60	21	1	2
	4		48	194	17	3	1	4	26	25	187	22	3	
	3		8	16	28	5	2	3	4	10	14	30	1	
	2			1		2		2		1		1	1	
	1		2	3		1	5	1		4	1		2	4

		設問9						設問10						
		目答なし	5	4	3	2	1	目答なし	5	4	3	2	1	
設問11	目答なし	1	1	1				目答なし	1	1	1			
	5		581	41	7	3	2	5		582	43	4	3	2
	4		53	193	12	3	2	4		63	193	6		1
	3		10	18	27	1	3	3		14	11	34		
	2			1	1	1		2			1		1	1
	1		3			2	6	1		4		1	1	5

授業管理に関する設問(設問11)とわかりやすさ(設問4)、資料活用(設問8)、板書・スクリーン活用(設問9)および声量(設問10)のクロス集計結果は表3のとおりである。表中の網掛け部分が示すとおり、適切な授業環境の維持と、授業理解、資料活用、板書・スクリーン活用および声量に関する設問とのあいだに相関性がみられるといえる。

4. 「学生視点」集計結果

(1) 学年別

学年別の結果について、4.5以上の数値を網掛けで示した(表4-1参照。ただし科目等履修生、所属不明者のデータを除く)。また、参考として2024年度前期の結果を表4-2に示した。なお、2024年度、2025年度ともに、設問3の回答率は、全学年平均して回答者全体の約6割程度(2025年度は、1年;56.3%、2年;71.1%、3年;62.7%、4年;58.3%)であることに留意を要する。

学年別にみた場合、1、2年は、設問1を除くすべての項目で4.5以上となった。一方、3年生は、全ての項目において4.5を下回り、最も高い値(4.4)を示した項目が設問1(出席)と設問3(シラバス)であった。3年生平均は、全学全体平均と出席(設問1)を除き、概ね同等の結果となっている。結果として示されたポイントに学年差は生じているが、どの学年も、授業に対して意欲的(設問2)に取り組み、新しい知見が得られた(設問5)と肯定的な結果を示したといえる。

【表 4-1】 2025 年前期

設問	1年	2年	3年	4年
1	4.4	4.3	4.4	3.8
2	4.6	4.5	4.3	4.5
3	4.7	4.7	4.4	4.4
4	4.6	4.5	4.1	4.5
5	4.7	4.6	4.3	4.4
6	4.7	4.7	4.3	4.5
7	4.6	4.6	4.1	4.4
8	4.6	4.6	4.2	4.4
9	4.7	4.6	4.2	4.4
10	4.7	4.7	4.3	4.5
11	4.6	4.7	4.3	4.4
12	4.7	4.7	4.3	4.5
13	4.6	4.6	4.2	4.4
平均	4.6	4.6	4.3	4.4

【表 4-2】 2024 年前期

設問	1年	2年	3年	4年
1	4.4	4.3	4.2	3.9
2	4.6	4.3	4.4	4.4
3	4.7	4.4	4.5	4.7
4	4.7	4.3	4.3	4.4
5	4.7	4.3	4.3	4.4
6	4.7	4.5	4.3	4.6
7	4.6	4.4	4.3	4.4
8	4.6	4.1	4.3	4.5
9	4.7	4.3	4.3	4.5
10	4.8	4.5	4.4	4.6
11	4.7	4.4	4.3	4.4
12	4.8	4.5	4.3	4.6
13	4.7	4.3	4.3	4.4
平均	4.7	4.4	4.3	4.4

2024 年度第 18 回人間生活科学部教授会資料より

また、2025 年度の 1 年生のポイントが相対的に極めて高く、設問 1 を除く全設問の回答が 4.6 以上となっている。これは、2024 年度（表 4-2 参照）も同様の傾向を示した。昨年度の分析において、上級学年になるとポイントが下がると指摘されており、相対的低下の要因として、実習開始によるモチベーションの低下があげられている。しかし、経年変化でみた際、2025 年度 2 年生は、前年の 1 年生の時と比較すると、ポイントが平均で 0.1 低下（4.7→4.6）してはいるが、十分に高いポイントを維持している。また、4 年生も、2024 年度の 3 年生の時と比較しても 4.5 を超える項目が増え、設問 1 を除き、全体的にポイントが上昇している。

こうした学年別の傾向は、これまでの報告書で指摘されたように、実習の実施と関連があるとすれば、理論と実践の往還が教育学・保育学の修得において重要であると学生自身が意識できるような工夫が求められるといえる。

(2) スポーツ推薦入学の学生

「スポーツ学生」を分類基準とした学年別の結果は表 5 のとおりである。4.0 未満の数値を網掛け部で示した。1、2 年生にその傾向は見られない。平均値の傾向をみると、設問 1（出席）を除外

すると、全体では、スポーツ学生が高い値を示し、1、2年と3、4年で傾向が逆転する（太字部分参照）。1年生はスポーツ学生が約60%、2年生は約43%、3年生は約15%、4年生は約10%と、学年ごとにスポーツ学生の割合が異なるため、スポーツ学生と一般学生という類型による考察は難しい。

しかし、学年別でみた場合、3年スポーツ学生の方が一般学生と比較し、相対的に値が低いことは、上記(1)の分析のように、3年前期に保育実習（学外実習）があることから、授業・

実習・部活の三者の両立が困難であったと推察できる。しかし、2年次においても幼稚園研修があることを考えると、スポーツ学生の方が高いことの説明が難しく、昨年度の3年生はスポーツ学生の方が一般学生より平均値が高かった（スポーツ学生4.6、一般学生4.3）ことから説明しがたい。また、取得を希望する免許資格によって実習時期が異なることも考慮する必要があるため、全体の結果の平均値で分析することは困難である。

そもそも、希望する免許資格取得による履修科目や実習の違いは、学年や学生分類によって傾向がわかるものではないため、数値にとられることなく、各学生の状況に応じた授業内・授業外での学習支援やモチベーションのフォローが必要である。

【表5】

設問	全体		1年		2年		3年		4年	
	スポーツ	一般	スポーツ	一般	スポーツ	一般	スポーツ	一般	スポーツ	一般
1	4.2	4.4	4.3	4.6	4.1	4.5	4.1	4.4	3.6	3.9
2	4.6	4.5	4.7	4.5	4.6	4.5	4.0	4.4	4.5	4.5
3	4.7	4.6	4.7	4.8	4.7	4.7	4.0	4.4	4.0	4.5
4	4.6	4.4	4.6	4.6	4.6	4.5	4.0	4.1	4.2	4.5
5	4.6	4.5	4.7	4.6	4.7	4.5	4.1	4.3	4.0	4.5
6	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8	4.6	4.1	4.4	4.2	4.5
7	4.6	4.5	4.7	4.6	4.8	4.5	3.7	4.2	4.1	4.5
8	4.6	4.4	4.6	4.4	4.7	4.5	3.8	4.2	3.9	4.4
9	4.7	4.5	4.7	4.6	4.7	4.6	3.9	4.3	4.0	4.5
10	4.7	4.6	4.7	4.7	4.8	4.6	4.0	4.3	4.1	4.6
11	4.6	4.5	4.7	4.6	4.7	4.6	3.7	4.4	3.7	4.5
12	4.7	4.6	4.8	4.7	4.8	4.6	3.8	4.4	3.9	4.5
13	4.6	4.4	4.7	4.6	4.7	4.5	3.8	4.2	4.1	4.4
平均	4.6	4.5	4.7	4.6	4.7	4.5	3.9	4.3	4.0	4.4

以上

2025 年度 人間生活科学部管理栄養学科 授業評価アンケート報告書

1. 実施概要

実施予定 36 科目のすべてで授業評価アンケートを実施し、回収率は 100%であった。回答率は 83.71%で、全体の回答率(62.68%)よりも高い水準を維持していた。前年度前期の回答率(84.08%)と比較すると、0.3ポイント低かった。

所属名	対象科目数 (A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
【全体】	294	293	99.66	18040	18026	11298	62.68
管理栄養学科	36	36	100.00	1,387	1,387	1,161	83.71

2. 管理栄養学科全体の平均ポイントについての 2025 年度と 2024 年度平均との比較

設 問	内 容	2024 年度平均 (前期)		2025 年度平均 (前期)	
		管理栄養 学科	全体	管理栄養 学科	全体
1	あなたはこの授業によく出席しましたか	4.35	4.09	4.29	4.12
2	あなたはこの授業の履修(授業そのもの、予習、復習)に意欲的に取り組んだと思いますか	4.18	4.17	4.19	4.23
3	この授業はシラバスにそっておこなわれたと思いますか 上記の設問 E で「はい」と答えた人のみ回答すること	4.56	4.38	4.48	4.42
4	授業内容はわかりやすかったと思いますか	4.16	4.17	4.26	4.26
5	この授業を受けて新しいものの見方や考え方を得られたと思いますか	4.15	4.18	4.24	4.26
6	教員の教え方には熱意があったと思いますか	4.28	4.29	4.36	4.36
7	授業の速さや進め方は適切だったと思いますか	4.24	4.21	4.28	4.28
8	教科書・配布資料は活用されていたと思いますか	4.35	4.25	4.33	4.31
9	板書やスクリーン・モニターなどは見やすく示されていたと思いますか	4.31	4.25	4.33	4.31
10	教員の声は聞き取りやすかったと思いますか	4.30	4.31	4.35	4.37
11	一部の学生の私語・携帯電話・遅刻など授業の妨げに対する教員の対応は、適切だったと思いますか	4.27	4.19	4.32	4.27
12	教員は授業時間を守っていたと思いますか	4.40	4.39	4.42	4.43
13	この授業の教え方はよいですか(この項目の結果はエクセレントティーチャーの表彰に用いられます)	4.18	4.22	4.31	4.29
	全平均値	4.29	4.24	4.31	4.31

前年度(2024年度)と比較すると、「設問1:出席」は前年度と同様で大きな変化はみとめられなかった。また、「設問2:学習意欲」、「設問4:授業内容のわかりやすさ」、および「設問5:新しいものの見方・考え方」についても、前年度とほぼ変わらなかった。

3. 管理栄養学科の属性別平均ポイントの比較

(1) 学年別の比較

設 問	2024年度平均(前期)								2025年度平均(前期)							
	1年生		2年生		3年生		4年生		1年生		2年生		3年生		4年生	
	有効数	平均	有効数	平均	有効数	平均	有効数	平均	有効数	平均	有効数	平均	有効数	平均	有効数	平均
1	468	4.6	489	4.2	490	4.3	98	3.9	484	4.4	415	4.5	363	4.0	104	4.0
2	469	4.2	489	4.2	492	4.1	98	4.2	481	4.0	418	4.3	361	4.2	104	4.2
3	165	4.5	284	4.6	202	4.6	48	4.4	192	4.3	199	4.5	198	4.5	45	4.6
4	469	4.1	489	4.2	492	4.0	98	4.3	483	3.9	418	4.4	363	4.2	104	4.4
5	467	4.2	450	4.3	490	4.0	97	4.3	481	3.9	415	4.4	363	4.3	104	4.3
6	469	4.3	487	4.3	490	4.2	97	4.4	479	4.1	414	4.5	363	4.3	104	4.5
7	469	4.2	490	4.3	492	4.1	98	4.4	484	3.9	418	4.4	363	4.3	104	4.5
8	433	4.3	478	4.3	433	4.3	96	4.4	482	4.0	411	4.4	327	4.4	103	4.4
9	432	4.3	450	4.3	491	4.2	97	4.4	484	4.1	417	4.4	363	4.3	104	4.5
10	468	4.4	489	4.3	491	4.2	98	4.5	482	4.2	418	4.4	362	4.3	104	4.5
11	469	4.3	489	4.3	492	4.1	97	4.4	482	4.0	416	4.4	363	4.4	104	4.4
12	469	4.5	490	4.4	492	4.3	98	4.5	484	4.2	417	4.5	363	4.4	104	4.5
13	469	4.2	484	4.3	488	4.0	97	4.3	481	4.0	417	4.4	362	4.2	103	4.4
平 均	440	4.31	466	4.32	464	4.2	93.6	4.34	460	4.08	399	4.42	347	4.3	99	4.39

1年生、2年生と比較して、4年生で「出席(設問1)」が低かった。この傾向は、2024年度でも同様にみられているが、これは4年生では就職活動により授業に出席できなかったことが原因だと考えられる。また、今年度は3年生でも「出席(設問1)」が低かったが、これは、今年度は3年生の臨地実習が前期の他の授業と重なることが多かったことが原因であると考えられる。

今年度の結果で目立ったのは、「設問4:わかりやすさ」、「設問5:新しいものの見方」、および「設問13:授業の教え方」が他の学年と比較して1年生で低かった点で、これは今年度に入學した1年生でスポーツ学生が多かったことが影響していると推測された。また、「設問4:わかりやすさ」、「設問5:新しいものの見方」、および「設問13:授業の教え方」は、2年生、4年生と比較して3年生で低い傾向がみられた。この傾向は2024年度の平均でも同様にみられており、3年生で受講する授業科目の中で、学生が難しく感じているなど、授業科目の特性によるものである可能性が考えられた。

(2)スポーツ学生と非スポーツ学生との比較

設問	スポーツ学生				非スポーツ学生			
	1年生	2年生	3年生	平均	1年生	2年生	3年生	平均
1	4.35	4.46	4.18	4.33	4.50	4.52	3.94	4.32
2	3.95	4.40	4.56	4.30	3.96	4.27	4.18	4.14
3	4.43	4.25	4.48	4.39	4.21	4.60	4.46	4.42
4	3.94	4.42	4.36	4.24	3.93	4.36	4.22	4.17
5	3.89	4.41	4.42	4.24	3.81	4.41	4.27	4.16
6	4.06	4.47	4.50	4.34	4.04	4.48	4.32	4.28
7	3.89	4.41	4.38	4.23	3.92	4.38	4.33	4.21
8	4.03	4.46	4.43	4.31	4.04	4.41	4.40	4.28
9	4.04	4.43	4.42	4.30	4.10	4.43	4.29	4.27
10	4.15	4.40	4.44	4.33	4.17	4.41	4.31	4.30
11	4.06	4.40	4.46	4.31	4.01	4.44	4.34	4.26
12	4.26	4.42	4.58	4.42	4.23	4.50	4.41	4.38
13	4.09	4.44	4.28	4.27	3.96	4.40	4.21	4.19
平均	4.09	4.41	4.42	4.31	4.07	4.43	4.28	4.26

「設問 1:出席」は、2年生でスポーツ学生と非スポーツ学生が変わらなかったが、1年生ではスポーツ学生の平均(4.35)が非スポーツ学生(4.50)より低い傾向が、3年生では逆にスポーツ学生の平均(4.18)が非スポーツ学生の平均(3.94)より高い傾向がみられた。「設問 2:学習意欲」「設問 4:わかりやすさ」「設問 5:新しいものの見方」については、スポーツ学生と非スポーツ学生で差はみられなかったが、2年生と3年生と比較して1年生で低くなっていた。

4. 「設問4:授業内容のわかりやすさ」における専門科目ごとのクラス間の比較

1年生			
科目	平均	1組	2組
食品学実験Ⅰ	4.39	4.45	4.32
調理科学実験	4.37	4.55	4.19
平均	4.38	4.50	4.25

2年生			
科目	平均	1組	2組
栄養調理学実習	4.58	4.70	4.45
応用栄養学実習	4.46	4.47	4.45
平均	4.52	4.58	4.45

3年生			
科目	平均	1組	2組
栄養教育論実習Ⅱ	4.63	4.36	4.90
臨床栄養学実習Ⅰ	4.51	4.31	4.70
応用栄養学演習	4.04	3.82	4.26
公衆栄養学実習	3.69	3.47	3.91
平均	4.22	3.99	4.44

4年生			
科目	平均	1組	2組
臨床栄養学演習	4.35	4.50	4.20

1年生では、1組の平均ポイントが4.50、2組が4.25と、1組の方が高い傾向を示した。2年生では、1組が4.58で2組が4.45と1組が少し高い傾向を示した。3年生では、1組が3.99、2組が4.44と、2組が顕著に高い傾向を示した。4年生では、1組が4.50、2組が4.20と、1組の方が高い傾向を示した。

同じ実習の授業でも、学年によって1組と2組で「設問4:授業のわかりやすさ」のポイントに差がみられた。

5. 「設問5:新しいものの見方」における専門科目ごとのクラス間の比較

1年生			
科目	平均	1組	2組
調理科学実験	4.54	4.60	4.48
食品学実験Ⅰ	4.25	4.27	4.23
平均	4.39	4.44	4.35

2年生			
科目	平均	1組	2組
栄養調理学実習	4.59	4.68	4.50
応用栄養学実習	4.54	4.58	4.50
平均	4.57	4.63	4.50

3年生			
科目	平均	1組	2組
栄養教育論実習Ⅱ	4.66	4.36	4.95
臨床栄養学実習Ⅰ	4.61	4.42	4.80
応用栄養学演習	4.18	3.88	4.47
公衆栄養学実習	3.92	3.67	4.18
平均	4.34	4.08	4.60

4年生			
科目	平均	1組	2組
臨床栄養学演習	4.29	4.42	4.16

「設問5:新しいものの見方」については、1年生では1組の平均ポイントが4.44、2組の平均ポイントが4.35と、1組の方がやや高い傾向を示した。2年生では、1組が4.63、2組が4.50と1組の平均ポイントの方がやや高い傾向を示した。3年生では、1組が4.34、2組が4.60と、2組の平均ポイントの方が高かった。4年生では、1組が4.42、2組が4.16と、1組の平均ポイントの方が高かった。

「新しいものの見方」に関しては、学年によって1組・2組の傾向が異なっていた。

6. 「設問11:教室管理」における専門科目ごとのクラス間の比較

1年生			
科目	平均	1組	2組
調理科学実験	4.47	4.60	4.33
食品学実験I	4.39	4.41	4.36
平均	4.43	4.50	4.35

2年生			
科目	平均	1組	2組
応用栄養学実習	4.54	4.68	4.40
栄養調理学実習	4.48	4.59	4.36
平均	4.51	4.64	4.38

3年生			
科目	平均	1組	2組
栄養教育論実習II	4.63	4.41	4.86
臨床栄養学実習I	4.53	4.25	4.80
応用栄養学演習	4.18	3.94	4.42
公衆栄養学実習	4.03	3.93	4.14
平均	4.34	4.13	4.55

4年生			
科目	平均	1組	2組
臨床栄養学演習	4.39	4.46	4.32

「設問11:教室管理」についても、「設問4:授業内容のわかりやすさ」と「設問5:新しいものの見方」と同様に1年生では1組の平均ポイントが2組の平均ポイントよりやや高い傾向にあり、2年生では1組の平均ポイントの方が2組の平均ポイントより高い傾向が、3年生では2組の平均ポイントの方が1組の平均ポイントより高かった。4年生でも1組の平均ポイントの方が2組の平均ポイントより高い傾向がみられた。

「設問11:教室管理」についても学年によって1組と2組で差が見られる傾向にあり、その傾向は「設問4:授業内容のわかりやすさ」や「設問5:新しいものの見方」でみられた傾向と同様の傾向がみられた。

7. 「設問 11:教室管理」に対する各設問のクロス集計

<設問 11×設問4>

全体		設問 4					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし	10	10	8	4	2	1
	5	6	4325	816	165	34	22
	4	3	623	3041	329	68	7
	3	2	155	415	811	87	30
	2		25	67	35	47	14
	1	1	23	27	15	13	57

管理栄養学科		設問 4					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし	1	2	3		1	
	5	1	1292	237	49	11	4
	4		211	769	93	19	2
	3	1	56	117	216	14	11
	2		10	22	6	13	2
	1	1	9	7	3	2	11

本学全体において、「設問 11:教室管理」が高いほど「設問4:授業内容のわかりやすさ」も高く、両設問の間には強い正の関連性がみられた。特に、教室管理が「5(非常にそう思う)」と評価された授業では、「わかりやすさ」も同様に「5」または「4」と回答した割合が圧倒的に多く、授業運営の整備が理解度向上に寄与していることがうかがえる。人間生活科学部 管理栄養学科においても同様の傾向が認められ、「教室管理」が良好な授業ほど「わかりやすさ」の評価も高かった。全体的に、昨年度よりも低評価の分布が減少し、授業環境や運営面の質が一層安定化していることが示唆された。

これらの結果から、授業の進行や環境整備が適切に行われることが、学生にとって内容の理解しやすい授業づくりにつながっていると考えられる。

<設問 11×設問8>

全体		設問 8					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし	17	2	10	4		2
	5	281	4350	568	128	23	18
	4	130	660	2944	276	53	8
	3	46	191	395	814	40	14
	2	3	36	62	39	41	7
	1	5	23	23	16	9	60

管理栄養学科		設問 8					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし		1	1	2		
	5	15	473	43	12	1	
	4	15	56	357	25	12	1
	3	5	9	36	79	3	1
	2	1		2	2		
	1	2	1	1	1	1	3

<設問 11×設問9>

全体		設問 9					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし	14	6	8	4		3
	5	39	4656	517	112	24	20
	4	21	728	2992	250	67	13
	3	8	167	414	811	59	41
	2	1	28	62	41	46	10
	1		19	20	13	12	72

管理栄養学科		設問 9					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし	3	2	2			
	5	34	1359	161	30	5	5
	4	17	218	770	75	12	2
	3	5	57	114	216	15	8
	2	1	13	18	9	12	
	1		5	6	4	2	16

上記の表から本学全体において、「設問8:教科書・配布資料の活用」、「設問9:板書、スクリーン・モニターの見やすさ」が高いほど、「設問 11:教室管理」が高かった。人間生活科学部 管理栄養学科でも同様に、「設問 8:教科書・配布資料の活用」、「設問9:板書、スクリーン・モニターの見やすさ」と「設問 11:教室管理」の間に関連性がみられた。

これらのことから、教科書・配布資料が十分活用され、板書、スクリーン・モニターが見やすいことが、教室管理の向上につながっていることが推測された。

<設問 11×設問 10>

全体		設問 10					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし	15	6	6	6		2
	5	17	4846	405	59	30	11
	4	8	885	2929	198	40	11
	3	3	218	389	803	69	18
	2	1	33	67	33	42	12
	1	1	28	18	10	12	67

管理栄養学科		設問 10					
		回答なし	5	4	3	2	1
設問 11	回答なし		1	1	2		
	5	1	502	30	5	4	2
	4		66	376	21	3	
	3		9	34	86	3	1
	2			2	1	2	
	1				1	1	7

上記の表から本学全体において、「設問 11:教室管理」が高いほど「設問 10:声の聞き取りやすさ」が高くなっており、この関連性は人間生活科学部 管理栄養学科においても同様にみられた。

8. 考察

人間生活科学部 管理栄養学科の回答率は、本学全体よりも高く、前年度(2024 年度)の前期とほぼ同様に 83.71%と高い回収率を維持できていた。

設問別では、「設問 1:出席」はおおむね安定しているが、4年生では就職活動、3年生では臨地実習など授業と並行して行う学外活動の影響で、「設問 1:出席」が低くなっている学年もみられた。「設問 2:学習意欲」は前年と同様に高い水準を維持しているものの、今年度は、特に1年生で「設問 4:わかりやすさ」や「設問 5:新しいものの見方」などの評価が低くなっていた。

また、クロス集計結果からは、「設問 11:教室管理」を高く維持することが「設問 4:授業内容のわかりやすさ」や「設問 10:声の聞き取りやすさ」の向上に関連していることが示された。さらに、「設問 8:教科書・配布資料の活用」や「設問 9:板書・スクリーン・モニターの見やすさ」が高評価の授業では、「教室管理」の評価も高い傾向がみられ、授業環境の整備と教材の適切な活用が授業の理解や満足度の向上に寄与している可能性が考えられた。

今年度から管理栄養学科は授業については1組と2組に分けずに合同で一つの授業を行うことになっているが、実験実習については前年度と同様に1組と2組で分けて行っている。そのため、実験や実習は昨年度と同様に1組と2組のクラス間で評価ポイントに差が生じていた。実験や実習では1組と2組のクラス間で理解度にある程度差が出てしまうことが予想されるため、理解度に差がでないような対応を今後検討する必要があると思われる。

2025 年度 非常勤講師 授業評価アンケート報告書

1. 実施概要

対象科目数 125 に対して 124 科目で授業評価アンケートを実施し、回収率は 99.6%であった。回答率は 68.64% で、全体の回答率(62.68%)よりも高い水準を維持していた。

所属名	対象科目数 (A)	回収科目数 (B)	回収率 (B÷A)	対象科目 履修者数(D)	回収科目 履修者数(E)	回答者数 (F)	回答率 (F÷E)
【全体】	294	293	99.66	18040	18026	11298	62.68
非常勤講師	125	124	99.6	4,674	4,656	3,196	68.42

2. 非常勤講師全体の各項目平均ポイント

すべての項目において、4.0 点を上回っている。大きな課題を抱えていないとみてよいと考えている。

設問 1	設問 2	設問 3	設問 4	設問 5	設問 6	設問 7	設問 8	設問 9	設問 10	設問 11	設問 12	設問 13
4.11	4.28	4.44	4.31	4.28	4.37	4.28	4.37	4.36	4.41	4.31	4.47	4.33

3. 非常勤講師の各項目について

各項目の中でも、教員が授業改善に資することがしやすいと考えられる項目について記す。

(1) 設問 4 授業のわかりやすさ

上位 10 科目を示す。

生涯スポーツ実習 I(木 2)	5.00
中国語入門(月 3)	4.80
中国語初級(水 1)	4.80
生涯スポーツ実習 I(木 3)	4.77
Q2(留)アカデミック日本語レベル 2(月 3.木 3)	4.76
子どもの保健(金 1)	4.75
コリア語入門(金 2)	4.74
資格・検定講座 III(宅建対策)(月 3)	4.73
(留)日本語コミュニケーションレベル 5(木 3)	4.73
コリア語入門(木 1)	4.72

4.5～5.0 が 49 科目、4.0～4.5 が 62 科目、3.5～4.0 が 10 科目、3.5 未満が 3 科目であった。4.0 未満の科目は授業改善の分析・検討が必要である。

(2) 設問 5 新しいものの見方・考え方

上位 10 科目を示す。

生涯スポーツ実習Ⅰ(木 2)	4.90
中国語入門(月 3)	4.80
中国語初級(水 1)	4.80
コリア語入門(金 2)	4.79
スポーツ栄養学(木 4)	4.78
コリア語入門(木 1)	4.72
中国語入門(水 2)	4.71
生涯スポーツ実習Ⅰ(木 3)	4.71
コリア語入門(金 3)	4.71
英語コミュニケーション(2)(水 4)	4.70

4.5～5.0 が 34 科目、4.0～4.5 が 74 科目、3.5～4.0 が 12 科目、3.5 未満が 2 科目であった。4.0 未満の科目は授業改善の分析・検討が必要である。

(3) 設問 11 教室管理

上位 10 科目を示す。

コリア語入門(木 1)	4.89
中国語初級(水 1)	4.87
スペイン語入門(火 4)	4.85
コリア語入門(金 2)	4.84
生涯スポーツ実習Ⅰ(木 2)	4.81
生涯スポーツ実習Ⅰ(木 3)	4.80
市民生活とキャリア形成(再 2)(月 1)	4.76
中国語入門(月 3)	4.76
子どもの保健(金 1)	4.75
(教保)英語コミュニケーション(B)(月 1)	4.74

4.5～5.0 が 36 科目、4.0～4.5 が 73 科目、3.5～4.0 が 14 科目、3.5 未満が 1 科目であった。4.0 未満の科目は授業改善の分析・検討が必要である。

(4) 総括

本書における報告上の数値は良い点数が多く、大きな課題は見受けられない。引き続き、非常勤講師の先生方には、本学学生の成長のために、全力を尽くしていただきたいと考えている。しかし、当然、すべての数値が良いということではない。ここでは明記はしないが、各項目の4.0未満の科目はおおよそ一致する傾向にある。これは、あるポイントにしぼって修正をすることで授業改善が期待できるというものとは言い難く、ダイナミックな研修の導入など、これまでのレベルとは異なる方法を探らないと学生の満足度が停滞し続けることを意味すると捉えている。非常勤講師は専任教員との交流が非常に少なく、責任の所在が不明瞭になりやすいという課題も小さくない。この責めを非常勤講師の先生方だけに押し付けてしまっても、課題の解決にはならないだろう。この改善には、英語などの諸外国科目、留学生を対象とする日本語科目、情報系科目、教職科目、その他の共通科目ごとには、専任教員による責任者が存在しているため、何らかの指導や介入が必要になろう。全学的な課題と捉え、一丸となって学生の期待に応えていくことが求められている。